Ⅳ層中に、ラミナ状あるいは1~2cm大の小ブロック 状にやや粘性のあるⅢ層を混在させる。出土遺物は弥 生土器2点。うち1点が4で、壺口縁部。端部を上下 に若干拡張し、3条の凹線文を施す。中期後葉。

SP-12は、SP-9に西側を切られ、東側は調査区東壁にかかる長楕円形の柱穴。深さは約15cm。埋土は暗褐色の均質な砂質土で、やや粘性の高いIII層をラミナ状に含み、III-3層に比べてIIV層ブロックの混在が少ない。出土遺物は 5 (R1)のみ。弥生土器の鉢で、底部は小さな凸状と推測される。後期中葉から後葉。

SR-5は、Ⅲ層を切る砂礫を多く含む流路内堆積。

トレンチ内がこの流路のちょうど北岸にあたり、南岸は不明。SR-5埋土は灰黄褐色砂礫質土で、1~10mm大の砂粒・砂礫を多く含み、10cm大の石も少量含む。また下層に均質な砂質土をラミナ状に含み、しまりがややある。出土遺物は50点程度を数え、多くは弥生土器ないしは土師器片であるが、須恵器も確実に含む。図化できたのは19~21の3点。19は弥生土器壺底部。20・21は須恵器。20は坏蓋体部で稜が残る。6世紀前葉から中葉。21は甕胴部片。SR-5は古墳時代の後期以降に埋没することが窺える。

遺構出土で取り上げた遺物は少ないが、Ⅲ層出土と

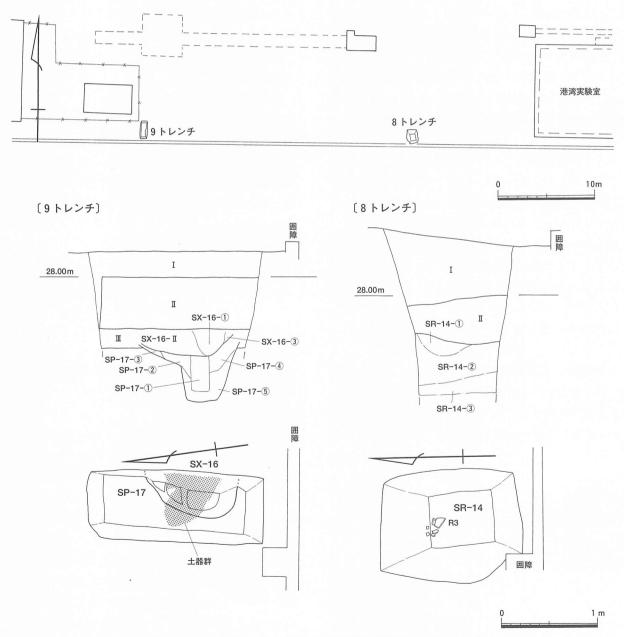


図128 8・9トレンチ位置図・実測図(縮尺1/400、1/40)

した遺物は比較的多い。6~18の13点が図化できた。 6~8は弥生土器の壺口縁部である。6は端部を上下 に若干拡張し、浅い凹線文を2条施す。頸部が直立す る形態と推定でき、後期初頭。7は口縁を上下に拡張 し、端部に凹線文2条を施す。中期後葉。8は短頸壺 口縁部で、口縁下端が若干肥厚する。後期前葉。9は 壺胴部。器壁は薄く、肩の張りが弱い。短頸壺とみら れ、後期前葉。10は外面にクシ描波状文・直線文を施 文しており、複合口縁壺口縁部とみられる。かなり器 壁が薄く、内面は剝離面の可能性も残る。後期中葉か ら後葉。11は壺底部。12~16は弥生土器甕の口縁部。 12・13は、横ナデにより口縁上端部をつまみ上げる。 いずれも中期後葉。14はやや内湾する口縁部。15はや や大型。後期中葉から後葉。16は緩やかに長く外反す る。後期中葉から後葉。17・18は高坏。17は内側に断 面三角形の突帯を貼り付け、外側稜部に刻みを施す口 縁部。中期中葉。18は脚部。外面に縦方向のミガキと 横ナデ、内面にシボリ痕が見られ、接合部に近いこと が窺える。後期か。

22~25は攪乱層出土。22·23は弥生土器。22は壺上 胴部で、板小口を用いた太い「ノ」字状押圧文が認め られる。中期後葉。23は壺頸部で、突帯を貼り付け、 斜格子状に押圧を加える。複合口縁壺の可能性が高く、 後期中葉から後葉。24は須恵器坏底部。残存範囲は回 転へラケズリが及ぶ。25は器台形のミニチュア土器か。 蓋形あるいは高坏形の可能性もある。 [吉田・山田]

## (8) 8トレンチ (図128・129、

図版38-5 · 6 · 40-10)

工学部港湾実験施設南西に設置したトレンチである。長さ約1.5m・幅約1.2mを呈する。 I 層が現地表下約60cmまで続き、II 層は30~50cmの厚さで堆積し、下部に鉄分の沈着が認められる。

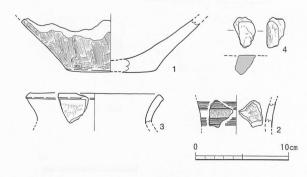


図129 8トレンチ出土遺物実測図(縮尺1/4)

標高28.00m以下は流路内堆積となり、この流路をSR-14とした。狭いトレンチ調査のため、標高27.00m前後までで作業を中止し、最終底面については不明であるが、底面まで遺物をほとんど含まない砂礫層が続いていると想定する。確認した範囲のSR-14埋土は4層に分けられる。①層は灰黄色砂質土で、砂礫を大量に含む。②層はにぶい黄褐色砂質シルトを主体としながら、灰黄褐色砂質土のブロックを含み、弥生土器片を多く含む。③層は灰黄色砂質土で、遺物はごく少量しか含まない。④層は灰白色砂質土で、親指先大の円礫を含み、遺物は見あたらない。

SR-14からは比較的多くの土器が出土しており、いずれも弥生土器である。特に②層下部を掘り下げ中、トレンチ北側部分で、弥生土器片が集中して出土しているが、接合関係は見られず、一括投棄したようなものではない。

SR-14出土遺物から4点を図化した。1 (R3) は② 層下部出土の、平底の壺底部。中期後葉か。2は①層出土の長頸壺頸部。縦方向の細かいミガキの後に、クシ描直線文を2帯施す。後期後葉。3も①層出土の甕口縁部。後期前葉から中葉。4は②層上部出土の被熱粘土塊。指頭圧痕を残す表面が一部残り、破損面にはスサ痕が窺える。以上から、SR-14の埋没は、弥生時代後期後葉を想定できることになる。 [三吉・山田]

# (9) 9トレンチ (図128・130~133、

図版39-1~4・41~43)

工学部 2 号館の南西に設置したトレンチである。南北長約1.8m・東西幅約0.8mを測る。トレンチ内の大部分は地表下約30cmまで I 層が続き、北壁近くでは現地表下80cm近くまで攪乱が及ぶ。 I 層下には II 層が約60cmの厚さで堆積する。

その直下、標高約27.50mで、1m前後の砂粒を少量含む灰黄褐色砂質シルトのⅢ層を検出した。また、検出と同時に、大量の弥生土器群があらわれた。弥生土器群はトレンチ中央、幅約50cmで北西から南東の方向に土器片が折り重なりながら流れ落ちるような状況で検出され、土器群の傾斜と重なり具合などから、北西側から南東方向に向かって投棄したものと考えられる。土器群除去後、遺構検出を行うと同時に、東西両壁の精査から、大量の弥生土器群は土器溜まりを形成していたことが判明し、これをSX-16とした。SX-16は、後述するSP-17埋没後に形成された落ち込み状の

遺構であるという以外、明確な形状については確認できていない。埋土は3層に分けることができる。①層は、灰黄褐色砂質シルトを主体として、明黄褐色砂質土の丸いブロックと、小指先大の円礫、炭化物を含む。②層は①層とほぼ同じ土質ながら、明黄褐色砂質土ブロックは①層に比べて少なく、親指先大の円礫を含む。土器群直下には薄い炭層が面的に広がる。③層は灰黄褐色砂質シルトで、明黄褐色砂質土のブロックを含まない。

SX-16の下層には、明らかに埋土の状況が異なる遺 構が存在する。SP-17である。SP-17は、トレンチ東 壁に沿って隅丸長方形の平面プランを確認し、残り半 分は調査区外へと続く。掘り方は1辺約1m、柱痕径 約20cmを測る。埋土は5層に分層できる。①層は柱痕 部である。灰黄褐色砂質土で、小指先大の炭化物ブロ ックを含み、砂礫は含まない。後記する②~⑤層に比 べて、またSX-16埋土に比べて圧倒的に粘性が高い。 ②~⑤層は柱を支えるために強固に突き固められ、し まりの強い土層である。②層は灰黄褐色砂質土で、砂 礫は含まないが、砂質が強い。明黄褐色砂質土の丸い ブロックが約半分を占める。③層は②層とほぼ同じ土 質で、明黄褐色砂質土の割合が高い。④層は、明黄褐 色砂質土のレンズ状ブロックと灰黄褐色砂質土をほぼ 同じ割合で混在させ、砂礫は含まないが、砂質が強い。 ⑤層は灰黄褐色砂質土を主体とし、灰黄色砂質土のブ ロックを含む。親指先大の円礫を含み、炭化物は含ま ない。出土土器は、いずれも押しつぶされた小片であ

狭い範囲にもかかわらず、9トレンチにおいては大量の遺物の出土を得て、49点が図化できた。取り上げ時にはIII層・SX-16上層上部・同上層下部・同下層に分けたものの、接合時には、その間で接合関係が頻繁に認められた。 $1\sim41$ が、接合分も含めて、SX-16出土とできるものである。なお他に、 $42\sim44$ がIII層出土、 $45\sim49$ が攪乱層出土である。

1~41の内、40・41の石器を除いた土器は、いずれも弥生土器であり、しかも基本的に中期後葉の土器で、田崎(2004)の指摘する焼成破裂土器片などの土器焼成失敗品を多数含む。

1~28は壺。1は大型壺の口頸部で、口縁端部を上下に拡張し、6条の凹線文が巡る。また頸部には、幅広の低平な突帯を貼り付け、板小口で密に押圧を施す。口縁部に焼成破裂痕があり、これに接合する焼成破裂

土器片もある。破裂土器片は、中央部が厚く端部は薄い。また、焼成破裂痕と焼成破裂土器片表面は、他の器壁と同様の色調に焼き上がっている。

2~6は、口縁部に凹線文、胴上半部に板小口を用いた「ノ」字状押圧文を施す同型式の壺。2~3は口縁部片であるが、凹線文部や頸部破断部に焼成破裂痕が連なって認められ、4には薄い黒斑を生じた破片と通常の破片が接合した焼成時破損 I 種 d が認められる。また、3は全体に赤く、焼きが良くない。5・6は上半部が残る。5は体部内外面に焼成破裂痕があり、焼成時破損 I 種 c~e も認められ、モザイク状の外観を呈する。6も焼成破裂痕が認められる。

7~11は板小口を用いた「ノ」字状押圧文が残る頸胴部。なで肩の形態の7~10と、肩の張る11の別があるが、基本的に先の2~6と同型式の壺である。7は、下端破断部に焼成破裂痕の一端が見られる。8は全体に焼成が不良で、下半は外表面のみが残る焼成破裂土器片である。9も赤焼けで焼成不良。10は内外面に焼成破裂痕を確認できる。11は、焼成破裂痕が内外面にあり、黒斑・黒変の有無による明確さは欠くが、内外面ともに色調の異なる破片の接合がある。

12・13は頸部に幅広のB種凹線文をもつ個体。12は 頸部凹線文部のみだが、外面の大きな剝落は、焼成破 裂痕の可能性が高い。13は焼成破裂痕及びこれに接合 する破裂土器片があり、接合部分で黒斑が途切れる焼 成時破損 I 種 d も認められる。14は頸部に細い凹線文 を施すが、その幅は狭く沈線風で、頸胴部境はむしろ 段状を呈する。外面のミガキも丁寧。黒斑が土器の破 損面まで及ぶ焼成時破損 I 種 e が認められる。

15は肩の張りの弱い胴部。焼成破裂痕があり、やや赤焼け気味である。16~29は体部下半ないし底部。外面を縦方向のミガキ、内面ケズリを行う。16は最大径部以下が残り、胴部最大径部に「ノ」字状押圧文を加える。やや赤焼け気味で焼成は良くなく、復元・接合部分で黒斑が途切れる焼成時破損 I 種 d が認められる。17は傾斜がやや急で甕の可能性もあるが、調整は共通する。18は焼成不良で全体的に赤みを帯び、焼成破裂痕が外面に認められる。19は胴部上半から底部まで残存。20・21は胴部横方向のミガキ部分まで残る。20は内面にハケ目が残るが、ややケズリ状。内面に焼成破裂痕がある。21は内外面に焼成破裂痕があり、接合部分で黒斑が途切れる焼成時破損 I 種 d と、黒斑が土器の破損面までのびる I 種 e も認められる。22~28

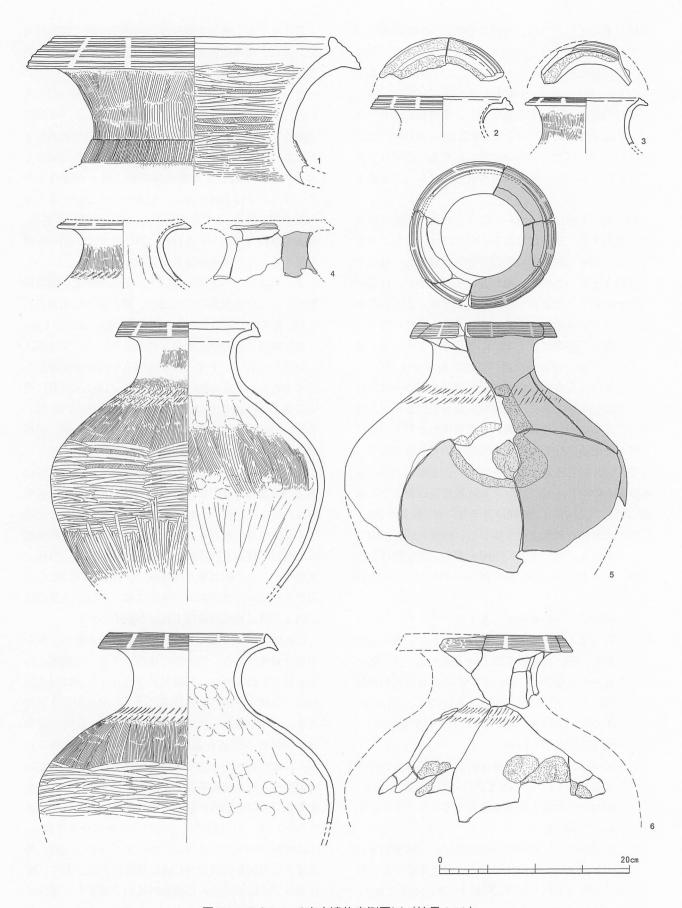


図130 9トレンチ出土遺物実測図(1)(縮尺 1/4)

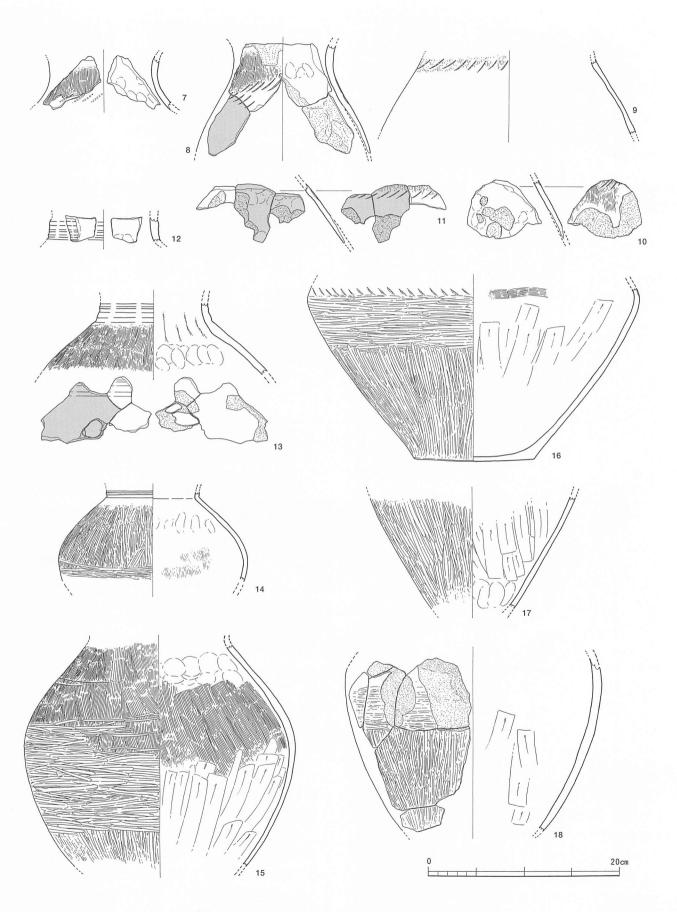


図131 9トレンチ出土遺物実測図(2)(縮尺1/4)

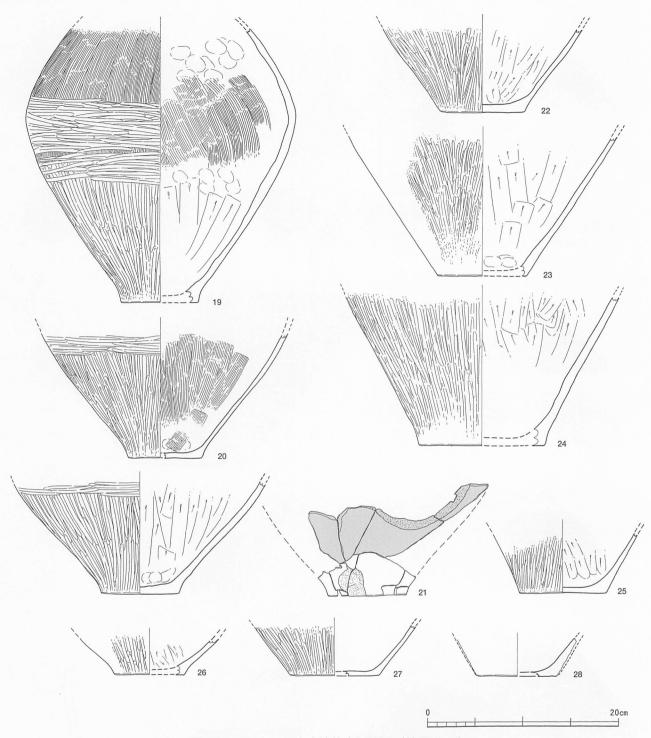


図132 9トレンチ出土遺物実測図(3)(縮尺1/4)

は、外面縦ミガキの範囲のみの底部。23・27は焼成や や不良。25・28は赤焼け。特に28は、焼成破裂により、 残存範囲において外表面が残らない。

29~32は甕。いずれも口縁端部を上下に拡張し、凹線文を施す。甕底部が見あたらないが、調整において壺に共通するため、先に壺底部とした中に甕底部の含まれる可能性が高い(17等)。29は口縁部から胴部中

位まで残る。外面は縦方向の細かなハケ目を全体に施した後、中位以下に縦方向のミガキを加える。内面は上半部には指頭圧痕が残るが、下半部には縦方向のケズリを施す。器壁も薄い。なお一部に焼成のあまい部位がある。30~32は、口縁端部の凹線文の上に、3個1対の縦位の浮文を貼り付け、さらに上から凹線文と平行方向の押圧を加えている。30・31は口縁部拡張の

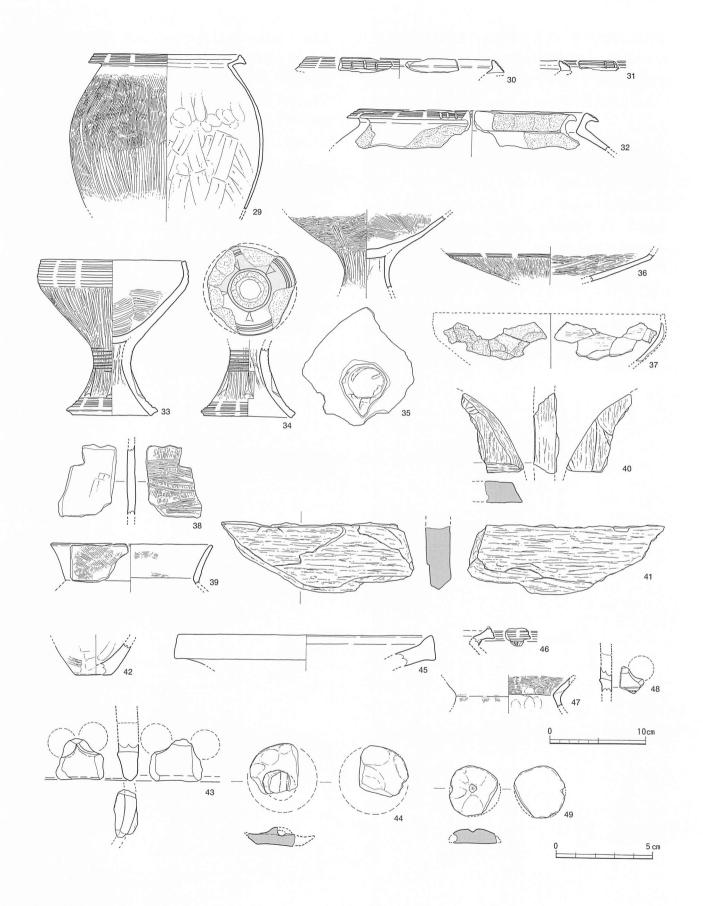


図133 9トレンチ出土遺物実測図(4)(縮尺1/4、1/2)

接合面で剝離しているが、剝離面の色調は他の外表面と大きく変わらず、焼成時破損 I 種 f の可能性が高い。また30は赤焼けである。32は大型の肩の張る器形。内外面とも焼成破裂痕が連なり、表面のほとんどが剝落する。

33~37は高坏である。33は全形が復元でき、深い坏部と、脚裾部の開きが小さく短い脚部からなる。外面縦方向のミガキの後、口縁部・脚部に施文する。口縁部上端面に1条の沈線文、外面に凹線文5条であり、脚部には7段の螺旋状に連続する沈線文を巡らせ、未貫通矢羽根透かしを5方向に開け、裾部は外面に3条、下端面に1条の凹線文を施す。なお、焼成時破損等の明確な痕跡は、本例に認められない。34は33と同型の脚部。外面縦方向のミガキ後、脚部に7条の沈線文と、脚裾部に凹線文を施す。沈線と凹線文の間には5方向の未貫通矢羽根透かしを施し、裾部には外面に凹線文

3条、下端に凹線文1条をもつ。外面は脚裾部をまわるように表面が剝離するが、剝離面の色調が周囲の器壁と異なり、焼成時破裂痕とは認められない。しかし、内面を中心に焼成は良くない。35は接合部。外面は坏部横ミガキ、脚部縦ミガキ。内面は坏部を横方向のハケ目調整、脚部横方向のケズリの後、円盤充填する。36は坏部で、口縁部凹線文の下端が残る。やや赤焼け。37は外面がすべて剝離しているが、残存する内面から高坏の坏部とした。外面の剝離は不整形な面が連続し、焼成破裂土器片とみられる。

38は器台の筒部か。外面縦ハケ目後、横方向に間欠的にミガキを施す。内面はケズリか。胎土も他とはやや異なり、時期的にも後期に降る。39は甕の口縁部。わずかに外反気味に長く立ち上がる。後期中葉から後葉。

40・41は、節理の発達した結晶片岩の同一石材で、

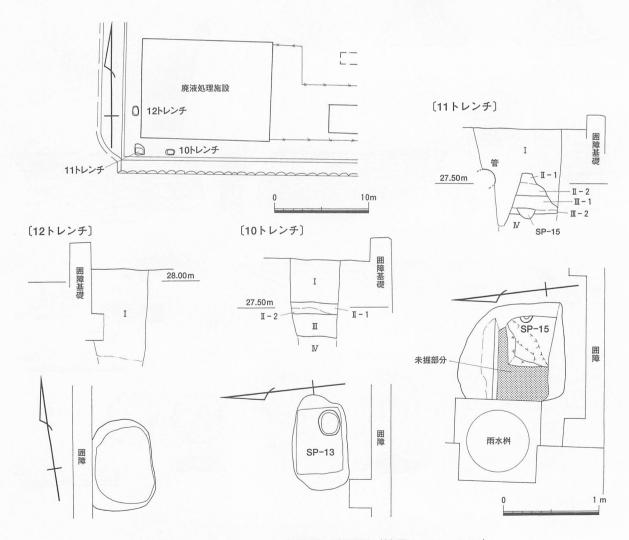


図134 10~12トレンチ位置図・実測図 (縮尺 1/400、 1/40)

元は同一個体の可能性がある。40は側面を円弧状に加工している。

Ⅲ層からは42~44が出土している。42は弥生土器甕底部。外面はタタキの痕跡が一部残り、底部も小さい。後期後葉。43・44はいずれも土製品と考えられる。43は、底部近くに近接して、孔径約1.6cmの円形透かしを2孔確認できる。復元底径4.2cmの器台形か。胎土はやや粗い。44は復元径3.6cmの鏡形。鈕部を中央からやや外れて貼り付け、鈕孔を穿つ。全面に指頭圧痕を残す。

45~49は攪乱層出土。45は弥生土器大型壺の口縁部で、上端部を三角形状に肥厚させる。中期中葉か。46・47は弥生土器甕の口縁部。46は口縁部に凹線文2条を施し、頸部に突帯を貼り付け、刻みを加える。中期後葉。47は内面横ハケ目を残す、やや長目の口縁部をもつ。後期中葉から後葉。48は復元径2.8cmの円形透かしと、クシ描直線文の一端がわずかに残る。器台の筒部と考える。弥生時代後期後葉か。49は片側が平坦なボタン状を呈し、膨らむ側の頂部に刺突痕がある。高坏接合部の充填粘土とも考えられるが、やや小さく、外形も整う。ここでは土製品としておく。焼成は弥生土器に共通する。

# (10) 10トレンチ (図134・135、図版39-5・43-7)

地表下約60cmの標高27.42mからはⅢ層となり、以下27.20mまで続く。この地点のⅢ層は暗褐色砂質土で、1mm以上の砂粒をほとんど含まず、炭化物粒を少し含み、粘性がややある。なおⅣ層上面で、径30cm弱・深さ10cm弱の柱穴SP-13を検出している。埋土は暗褐色砂質土で、やや粘性の高い1~2cm大のⅢ層小ブロックとⅣ層の同大ブロックが斑状に混在する。

Ⅲ層と攪乱層から若干の出土遺物を得ているが、図 化できたのは2点。いずれもⅢ層出土である。1は内 面と底面の剝離した壺底部。2は、ラッパ状に開く高 坏脚部である。裾部の接地面は小さく、外面は丁寧な ミガキを施す。残存範囲内で、透かしは認められない。 後期後葉。 [吉田・山田]

## (11) 11トレンチ (図134・135、図版39-6)

城北構内南西隅の廃液処理施設南西隅に接するように設置される電柱に伴うトレンチである。約1 m四方のトレンチを設定したが、トレンチに接して西側に雨水用排水枡があり、この埋設余掘りと、この枡に引き込まれる管路により、トレンチ西側と北側には攪乱が及ぶ。また南側も、南側囲障の設置に伴う余掘りがトレンチ南壁に迫る。したがって、本来の土層が残存するのは南東側50cm四方程度に過ぎない。東壁での所見によれば、II層が表土下50cm弱であらわれる。このII層は炭化物粒をわずかに含み、しまりがやや弱く、粘性のややある暗灰黄色砂質土のII-1層と、I-1 mm前後の砂粒を少し混じえ、砂質がやや強く、鉄分が沈着してしまりのある褐色砂質土のII-2層に分かれる。

II層の下、標高27.36m付近から包含層であるIII層があらわれ、そのうち上部約15cmほどのIII III IIII IIII 褐色砂質土で、IIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIIII IIIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIIII IIII IIIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIII IIII IIIII IIII IIII IIII IIII IIII II

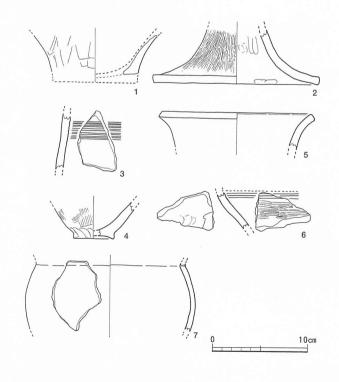


図135 10・11トレンチ出土遺物実測図 (縮尺 1 / 4)

質土で、Ⅲ-1層に比べて、Ⅳ層の1~2 cm大ブロックを多く含み、しまりがある。なお、調査区東壁際で、Ⅲ-1層下面から掘り込まれた、径20cm弱・深さ10cm強の柱穴SP-15を検出している。埋土は暗褐色砂質土で、砂粒をほとんど含まず、Ⅳ層の1 cm未満のブロックを少量含み、粘性がややある。また、Ⅳ層上面には溝状の凹部があるが、これは根によるⅢ層の落ち込みとみられる。

狭い範囲ながらⅢ層と攪乱層から、比較的多くの土器が出土しており、しかも弥生土器ないしは土師器で占められる。3・4はⅢ層出土。3は多条のへラ描直線文をもつ甕体部。前期後葉。4は、小さな高台状の上げ底底部。後期後葉。5~7は攪乱層出土。5は壺口縁部。緩やかに外反しながら開く。後期前葉。6は壺の上胴部で、頸胴部境に2条のヘラ描沈線が残る。

前期中葉から後葉。7は短頸壺の胴部か。後期前葉。 「吉田・山田]

# (12) 12トレンチ (図134)

11トレンチの電柱を支える北側支線埋設のために設定されたトレンチ。城北構内南西隅の廃液処理施設西側、11トレンチの北約3mに位置し、西側囲障に接する、南北約1m・東西約0.7mのトレンチである。トレンチの東約0.2mに建物が迫り、地表下約1mまで掘り下げたが、攪乱を受けた1層が続き、人力掘削できる範囲も限られ、また隣接する南側11トレンチでの包含層検出レベルとも比較して、この深度までで調査を終えた。なお、攪乱層から弥生土器が1点出土している。

# 5 ま と め

今回の調査は、愛媛大学城北キャンパスの南縁に沿ってほぼ等間隔に調査区が設定された。そのため、一連の長いトレンチではないが、キャンパス南縁に東西方向のトレンチを設定したことにもなり、この地点の遺跡の広がりについて、新しい知見を多く得ることができた。また、9トレンチのSX-16では、土器焼成失敗品を含んだ時期的まとまりのある遺物を得ることができた。これら2点について、まとめておきたい。

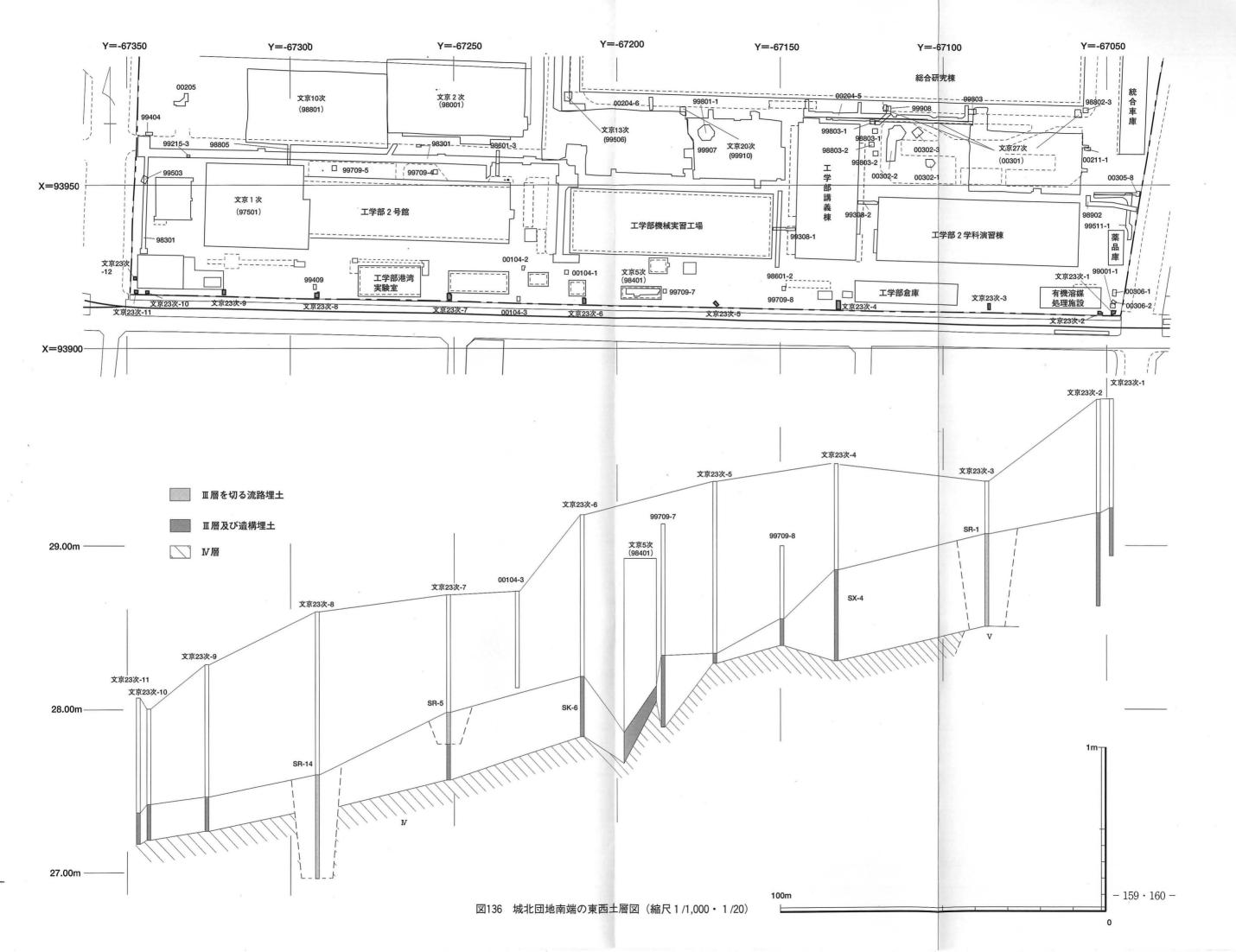
[吉田]

#### (1) 城北団地南縁の遺跡の展開 (図136)

今回の調査では、城北団地南縁にほぼ等間隔にトレンチを設定し、東西方向の地形復元に有効なデータが得られた。まず、現地表は、東端で標高約29.9m、西端で約28.0mと、1.9mの差がある。地山検出高は、3トレンチのV層上面が標高約28.5m、西端の11トレンチで約27.2mと、比高差1.3m。現地表及び地山層であるIV層ないしV層の上面とも西側へ傾斜する面をなし、旧地形の傾斜がより緩やかである。

東部の1~4トレンチでは、明確な流水性の堆積は 3トレンチのSR-1に留まるが、4トレンチのSX-3・4や1・2トレンチのⅢ層も、砂礫を多く含んだ 流水性の再堆積層である可能性が高い。つまり、城北 団地南東隅部付近は、広く流水性の堆積が広がってい ることになる。大学構外東方の、松山赤十字病院南西部での松山市教育委員会による試掘調査でも、やはり流路内堆積層が確認されており、一帯は、東西方向に伸びる微高地南縁の落ち際近くに当たることになる。なお、このような落ち際の埋没は、狭い範囲での出土遺物によれば、各地点で時期差があるらしい。1・2トレンチでは、Ⅲ層からは弥生土器のみの出土で、3トレンチSR-1は古墳時代後期、4トレンチSX-3・4は弥生時代後期を示している。

一方、5・6トレンチでは、流水性の堆積土が認められなくなり、東西方向の微高地が南に張り出した状況が推測できる。99709調査8トレンチでは弥生時代終末期の遺構があり、6トレンチより西部でも、弥生後期の遺物が点々と出土している。7トレンチSP-12などもその時期の遺構である。また、文京遺跡5次調査(調査番号:98401)や99709-7調査では、古墳時代後期の遺構・遺物も出土しており、7トレンチでは、古墳時代に下る流路内堆積層が認められた。7トレンチの地点では、南側低地帯の堆積が、古墳時代に一部北に拡張していたことになる。8トレンチでも厚い流路内堆積層であるSR-14を検出しているが、これは弥生時代後期に遡る可能性が高い。北側の文京遺跡1次調査(調査番号:97501)でも弥生時代後期の遺構・遺物が出土しているが、SR-14に連なるような流路や



溝などはなく、SR-14は城北団地南縁の低地帯本流部の堆積が北側に拡張したものらしい。

9~12トレンチでは、再び安定したIV層を検出できるようになり、1次調査区はじめ、北側で検出されている遺構群からの広がりが想定できる。9トレンチの、弥生時代中期後葉の土器焼成失敗品一括投棄であるSX-16や、その下での比較的大型の柱穴SP-17、そして10・11トレンチの柱穴である。中期後葉から後期を中心とするが、その一方で、前期に遡る弥生土器の出土もあり、周辺に前期に遡った遺跡の存在が予測される。なお、9トレンチではⅢ層から鏡形土製品が出土していることも注視される。

以上のように、城北団地南縁一帯は、東から西へと 緩やかに傾斜する微高地の、南側落ち際に位置し、地 点によって低地帯が南北に拡張・縮小している状況が 復元でき、時期毎に異なった遺跡の展開をみせている。 まず、弥生時代前期の遺物が点々としながら出土して いる。一方、文京遺跡で最も出土量の多い中期後葉は、 7トレンチのSP群あるいは9トレンチのSX-16・SP-17が目立った遺構であり、やや西側に偏って、1次調 査区からの広がりを想定できる。20次調査区や27次調 査区の状況からして、城北団地南縁東部への濃密な広 がりは想定できない。弥生時代後期の遺物も、6トレ ンチ以西で点々と確認でき、99709-8調査では明確 な遺構も認められた。北側への広がりはなお不明なが ら、やはり城北団地南縁西半に後期の遺跡も広がる可 能性が高い。古墳時代後期の遺構・遺物は、6・7ト レンチで確認できるが、5次調査や99709-7調査に も認められ、5次調査区を中心に遺構の広がることが 想定できる。また北側でも13次調査区と20次調査区の 西部で同時期の遺跡が展開しており、あるいは一連の 遺跡の広がりも想定できよう。 [吉田]

# (2) SX-16出土土器の位置づけ (図137·138)

9トレンチのSX-16出土土器は、狭い範囲と短時間での調査のため、詳細な出土状況を記録できていないが、出土遺物の内容から、土器焼成失敗品を多く含んだ一括廃棄資料とみなすことができる。以下、先に報告したSX-16出土資料土器の1~37について、その位置づけを考察する。

まず、37点の内訳であるが、壺28点、甕口縁部4点、 高坏5点である。ただし、報告でも述べたように、壺 には17など甕底部の可能性のあるものも含まれてい る。それでも、甕が少なく壺の多いのが特徴である。

また、器種毎の内容にも偏りがある。まず壺は、口縁部に凹線文をもち、長めの頸部が胴部に緩やかに連なり、肩部に「ノ」字状押圧文を巡らす壺①が10点(2~11)、大型の口縁部に凹線文、頸部に低平な貼付押圧突帯をもつ壺②が1点(1)、頸部に凹線文をもつ壺③が3点(12~14)である。なお壺③は、凹線文の特徴によって、12・13と14に2分できる。また、胴部・底部の多くは、形態的にも数的にも壺①と推測できる。そして、内面下半にケズリを行う個体が大半である。以上の3型式のいずれにも、焼成失敗品が含まれている。

一方、甕口縁部は、いずれも凹線文をもつ個体であるが、報告でも述べたように、30~32は同巧で、29に比べて胴部の張りが強いと予測できる。したがって、29を甕①、30~32を甕②としておく。なお、焼成失敗品は、甕①には認められず、甕②の1例がある。

高坏は、矢羽根透かしをもつ個体を2点(33・34)確認できるが、他の3点は全形を窺い型式を認定することが難しい。大きくは、凹線文を有する型式として、一括しておく。なお、焼成失敗品は、焼成破裂土器片である37があり、あるいは34の矢羽根透かしの脚部も何らかの焼成失敗品の可能性を考えられる。

以上のような器種・型式の組み合わせは、これまで中期後葉に位置づけられてきた土器様式の一部であることは間違いない。しかし同時に、SX-16出土土器に偏りがあるのも事実である。図137・138は、梅木(2000・2004等)により、中期後葉とされる他の資料群と比較を試みたものである。来住廃寺遺跡第15次調査3区下段W層出土土器(西尾編1993)、文京遺跡3次調査SB-1出土土器・同SK-8出土土器(栗田編1992)を中心に、他文京遺跡2次調査SB-4出土土器(栗田編1992)、同3次調査SK-7出土土器(栗田編1992)、同10次調査SX-10・SD-7出土土器(宮本編1991)を補った。

まず壺においては、壺①(14)としたものは、他の資料でもほぼ見いだすことができる( $1\cdot10\cdot11$ )。 頸部の屈曲の強い短頸のもの( $2\cdot5$ )まで含めれば、ほぼ普遍的な型式と言え、中期後葉の壺の主要型式とできる。その中でも、SX-16においては、長頸ばかりで占めることが特徴的である。壺②(15)も、やや小型のものも含めて、他の資料群に認めることができる( $12\cdot13$ )。ところが、壺③( $16\cdot17$ )は、道後平野に

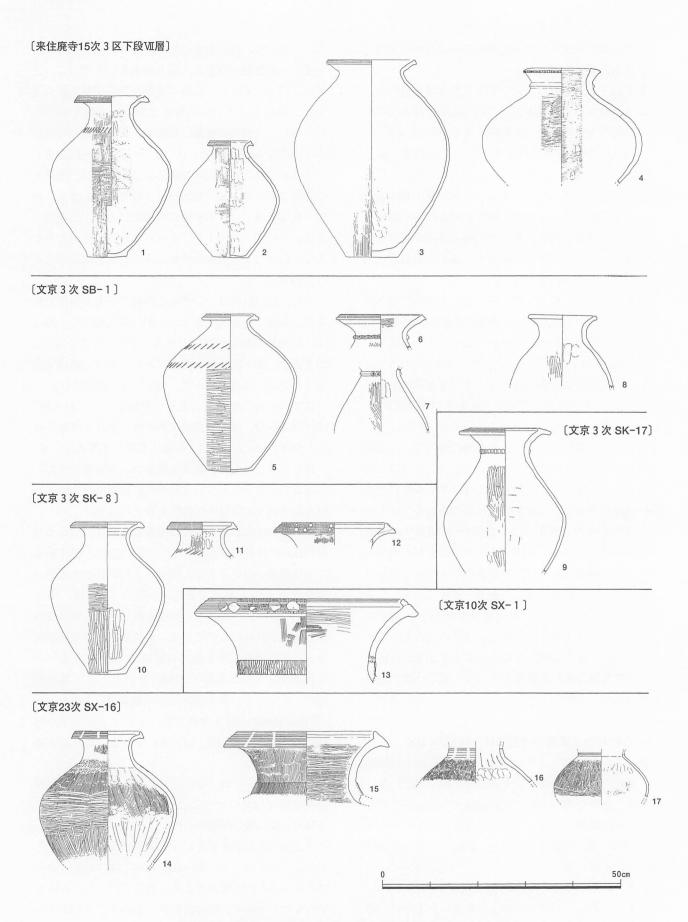


図137 道後平野の弥生時代中期後葉の土器(1)(縮尺1/8)

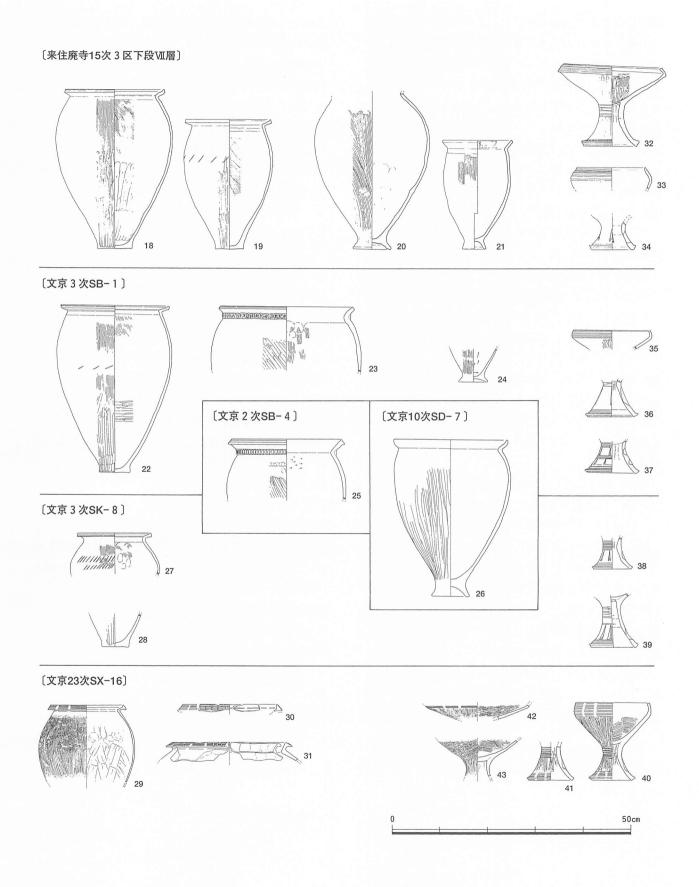


図138 道後平野の弥生時代中期後葉の土器(2)(縮尺1/8)

おいてほとんど認められない。その一方で、SX-16出土土器にはない型式を、他の資料には見いだすことができる。凹線文をもつものでも、頸部に貼付押圧突帯文をもつ壺( $6\cdot7\cdot9$ )であり、そして凹線文をもたない壺( $4\cdot8$ )である。したがって、他の中期後葉土器群の壺と比較して、長頸の壺①への集中と凹線文を有する個体のみでの構成に、SX-16出土壺の特徴を指摘できる。さらに、甕をも含みながら壺と一括した底部の多くは、ケズリという技法の共通性を有していたことも特徴的である。

一方、甕についても、4点の口縁部がいずれも凹線 文を有しており(29~31)、凹線文をもつ個体のみで の構成という同様の特徴があてはまる。詳細を比較し てみても、他の土器群の凹線文は、基本的に1条ない し2条に留まり、口縁部の拡張は小さく(18・19・ 22・23・25・27)、口縁部の拡張具合・凹線文の条 数・浮文の有無において、差が存在する。また、他の 資料群においては、凹線文をもたない個体(21・26) も少なからず存在し、これらの底部は上げ底を呈する (20・24)。こういった口縁部・底部も、SX-16におい ては見出せず、やはり凹線文の盛用が特徴として指摘 できよう。

他方、高坏については、SX-16出土土器も含めて、口縁部に凹線文・脚部に矢羽根透かしを有することで、ほぼ一致した様相を窺うことができる(32~40)。

以上、器種毎に見てきたが、改めてSX-16出土資料について、凹線文を有する型式のみでの構成と、底部内面のケズリを、強い特徴と指摘できる。そして、これら型式それぞれが、いずれも焼成失敗品を含んでおり、近接する地点で製作されたことが明らかである。 焼成単位を示す土器群と理解することができよう。

ただし、これを一定の時間を有する細分土器様式とできるかは、なお考慮を要する。凹線文・ケズリといった、技法的なまとまりが強いだけに、同時期におけ

る異なる技法を有する製作者集団に対応したことも考慮されなければなるまい。実際、これらの技法は、文京遺跡をはじめとした道後平野で、決して普遍的なものではない。壺③や甕①・②など、胎土が異なれば、搬入品として理解されてきたものである。とりわけ、凹線文B種を頸部に有する壺③など、中部瀬戸内地域に、類例を求めなければならない。甕②や壺内面下半のケズリも同様であろう。このような、中部瀬戸内的な土器作り技法を有した者の手による、一回の土器焼成に対応する資料として、まずSX-16出土資料を評価しておくべきである。

このような土器製作単位が、時間差を表す小様式となり得るのか、それとも文京遺跡における同時期の土器製作単位の差になるのか、密集居住域出土土器との比較によって、判断することとしたい。 [吉田]

## [参考文献]

梅木謙一,2000「伊予中部地域」『弥生土器の様式と 編年 四国編』木耳社.

梅木謙一,2004「伊予中部の弥生中期中葉~後期前葉」 『第53回埋蔵文化財研究集会 弥生中期土器の併行関係 発表要旨集』埋蔵文化財研究会。

栗田茂敏編,1992『文京遺跡-第2·3·5次調査-』 松山市文化財調査報告書28.

田崎博之,2004『土器焼成・石器製作残滓からみた弥生時代の分業と集団間交流システムの実証的研究』平成13 (2001)~平成15 (2003) 年度科学研究費補助金〈基盤研究(C)(2)〉研究成果報告書.

西尾幸則編,1993『来住廃寺遺跡-第15次調査報告書-』松山市文化財調査報告書34.

宮本一夫編,1991『文京遺跡第10次調査-文京遺跡に おける弥生時代遺跡の調査-』愛媛大学埋蔵文化財調 査報告Ⅲ.

# 表11 文京遺跡23次調査出土遺物観察表

	遺物番	* 号	出土状況		遺物の内容			収納
図	実測	取上	層位·遺構	種 別	器種	部 位	文様・調整・色調・胎土等の特徴	番号
			ンチ出土遺物実測	×				
1	F101	_	Ⅲ層	石器	剝	片	結晶片岩。	1
2	F103	rl2	111層	弥生土器	壺	上胴部	外面貼付突帯2条。突帯横ナデ、内面指頭圧痕。内外面橙色。石英・長石・雲母やや多く含む。	1
3	F102	rll	攪乱	瓦		瓦	凸面ミガキ、凹面コビキ痕。両面灰白色。燻し仕上げ。精良な胎土に石英・長石の微細粒含む。	1
4	F104	rl4	SR-1上層	弥生土器	並	底部	内外面磨滅。外面燈色、内面黄灰色。石英・長石少し含む。	1
5	F105	rl4	SR-1上層 -出土遺物実測図	弥生土器	高坏	坏部	□ 口縁部凹線文5条。外面ミガキ、内面横ナデ。内外面にぶい黄橙色。精良な胎土に石英・長石・雲母の微細粒含む。	1
1	F107	_	SX-3	弥生土器	31E	口縁部	由加面機よる 中加面機な 独立と貼上にてま 買て 番Rの郷如外会と	Ι,
2			Ⅲ層	弥生土器	差	底部	内外面機ナデ。内外面橙色。精良な胎土に石英・長石・雲母の微細粒含む。   外面縦ミガキ、内面指頭圧痕・ナデ。外面にぶい黄橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母細粒やや多く含む。	1
			出土遺物実測図	771.1.1.10	بالم.	750,010	アロベスカイ、下面自身に上張 / /。ア面にあい、真位 E、下面(人真位 E。 石火・沢石・芸母和松でヤタく占む。	1
1	F116	1	Ⅲ層 (SK-6)	弥生土器	謹	上胴部	へう描き沈線と刺突による頸部文様帯・胴部文様帯。外面ミガキ、内面指頭圧痕。外面にぶい黄橙色、内面	1
							浅黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒やや多く含む。	1
2	F113	r24	Ⅲ層 (SK-6)	弥生土器	藍	底部	内外面磨滅。外面橙色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒やや多く含む。	1
3	F115	r25	Ⅲ層 (SK-6)	弥生土器	差	上半部	口縁部内外面横ナデ、体部外面縦ハケ目、体部内面縦ハケ目・指頭圧痕。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母の細粒含む。	1
4	F112	r24	Ⅲ層 (SK-6)	須恵器	甕	胴部	外面タタキ後カキメ、内面青海波文。外面灰色、内面灰白色。石英・長石・雲母の細粒含む。	1
5	F114	r25	Ⅲ層 (SK-6)	石器		片	粘板岩。	1
6	F198	r22	攪乱	弥生土器	壺	頭部	断面三角形貼付突帯。外面横ナデ・ミガキ、内面ミガキか。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母やや多く含む。	1
7	F109	r22	攪乱	弥生土器	驰	上半部	口縁端部刻目、頸部貼付突帯・布目押圧。口縁部内外面横ナデ、体部外面縦ハケ目、体部内面横ミガキ。外面横圧な、内で勝ち、正常、原工、原理の側があった。	1
8	F110	r22	攪乱	弥生土器	鉢	口頸部	面褐灰色、内面橙色。石英・長石・雲母の細粒やや含む。	,
9	F111	r22	攪乱	須恵器	壺	胴部	内外面横ナデ。外面にぶい橙色、内面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母やや多く含む。	1
10	F108	r22	攪乱	青銅器		<b>英</b>	外面へラ記号。内外面回転ナデ。外面灰色、内面灰白色。石英・長石含む。   青銅製。残存長4.3cm・径1.1cm。内容物(火薬?)残か。	1
			出土遺物実測図	ta stann.	**		TOTAL ACTION FEETONS LILLAND LALLAND (VAN: ) 1XW.9	1 1
1	F134	r35	SP-8	弥生土器	遊	頸部	外面横ナデ・指頭圧痕、内面ミガキ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母含む。	2
2	F118	R2	SP-8	石器		石	3面使用。花崗岩。	2
3	F135	r37	SP-10	弥生土器	高坏?	脚部	円形透。外面丁寧な縦ミガキ、内面ナデ。外面橙色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。	2
4	F136	r38	SP-11	弥生土器	壺	口縁部	四線文3条。口縁部内外面横ナデ、体部外面縦ハケ目。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。	2
5	F117	R1	SP-12	弥生土器	鉢	全形	内外面磨滅。外面黄橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒やや含む。	2
		r32	Ⅲ層					
6	F130	r31	Ⅲ層	弥生土器	遊	口縁部	口縁端部浅い凹線文2条。内外面横ナデ。外面橙色、内面灰色。2mm大の石英・長石多く含む。	2
7	F127	r31	Ⅲ層	弥生土器	壺	口縁部	口縁端部凹線文2条。内外面横ナデ。外面橙色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒やや含む。	2
8	F202	r32	Ⅲ層	弥生土器	蕓	口縁部	内外面横ナデ。外面黄橙色、内面にぶい橙色。精良な胎土に赤色粒含む。	2
9	F133	r31	Ⅲ層	弥生土器	壺	胴部	外面ミガキ・ナデ、内面指頭圧痕。外面にぶい橙色、内面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母含む。	2
10	F199	r31	Ⅲ層	弥生土器	菫	口縁部	クシ描直線文・波状文。外面橙色、内面にぶい黄橙色。精良な胎土に石英・長石の微細粒む。	2
11	F132	r31	Ⅲ層	弥生土器	壺	底部	外面磨滅、内面ハケ目。内外面黄橙色。石英・長石・雲母を多く含む。	2
12	F129	r31	Ⅲ層	弥生土器	甕	口縁部	内外面横ナデ。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母やや含む。	2
13	F200	r32		弥生土器	甕	口縁部	内外面横ナデ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母やや含む。	2
14	F203	r32	Ⅲ層	弥生土器	光	口縁部	内外面横ナデ。内外面灰白色。精良な胎土に石英・長石・雲母の微細粒やや含む。	2
15	F126	r31	Ⅲ層	弥生土器	- 25	口縁部	外面ナデ・横ナデ、内面ナデ。内外面浅黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒やや含む。	2
16	F128	r31	Ⅲ層	弥生土器	変	口縁部	外面横ナデ・縦ハケ目・頸部指頭圧痕、内面斜ハケ目。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母の細粒やや含む。	2
18	F131 F201	r31 r32	Ⅲ層	弥生土器	高坏	口縁部	内外面横ナデ。外面橙色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒やや含む。	2
19	F123	r29	SR-5	弥生土器 弥生土器	高坏	脚部 底部	外面縦ミガキ・横ナデ、内面しばり痕。外面褐灰色、内面にぶい黄橙色。石英・長石含む。 内外面磨滅。外面にぶい橙色、内面黄灰色。石英・長石・雲母・赤色粒多く含む。	2
20	F123	r29	SR-5	須恵器	坏蓋	体部	内外面回転ナデ。内外面灰色。石英・長石の細粒含む。	2
21	F125	r30	SR-5	須恵器	差	胴部	外面タタキ後カキメ、内面青海波文。内外面灰白色。石英・長石含む。	2
22	F120	r27	攪乱	弥生土器	並	胴部	太い「ノ」字状押圧文。内外面磨滅。内外面浅黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒やや多く含む。	2
23	F121	r27	攪乱	弥生土器	壺	頸部	財付突帯・斜格子状押圧文。外面にぶい橙色、内面灰黄褐色。石英・長石・雲母・赤色粒やや多く含む。	2
24	F119	r27	攪乱	須恵器	坏身	底部	外面回転へラケズリ、内面回転ナデ。外面淡黄色、内面灰白色。石英・長石・やや含む。焼成やや軟質。	2
25	F122	r28	攪乱	土師器		ユア受部?	外面縦ハケ目、内面横ハケ目。外面にぶい褐色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母の細粒やや含む。	2
_			出土遺物実測図				A STATE OF THE STA	
1	F139	R3	SR-14②層下部	弥生土器	壺	底部	外面細かい縦ハケ目、内面指頭圧痕。外面にぶい黄橙色、内面橙色。石英・長石・雲母やや多く含む。	3
2	F138	r41	SR-14①層	弥生土器	壺	頸部	クシ描直線文2帯。外面施文前縦ミガキ、内面ハケ目。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母含む。	3
3	F137	r41	SR-14①層	弥生土器	甕	口縁部	外面縦ハケ目・横ナデ、内面磨滅。外面橙色、内面明赤褐色。石英・長石・雲母やや含む。	3
4	F204	r43	SR-14②層上部		被熱粘土塊		外面指頭圧痕。スサ痕あり。	3
12		133 9 h	レンチ出土遺物実活					
1	F171	r53	SX-16下層	弥生土器	莲	口頸部	口縁部凹線文6条、頸部低平な貼付押圧突帯。外面縦ハケ目、内面縦ハケ目・横ミガキ。外面にぶい橙色、内	4
0	T31.55		O11 16	7/- /			面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母の細粒やや多く含む。接合する焼成破裂痕・焼成破裂土器片あり。	
2	F157	r53	SX-16下層	弥生土器	壺	口頸部	口縁部凹線文3条。内外面横ナデ。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母含む。焼成破裂痕あり。	4
3	F152	r52	SX-16上層下部	弥生土器	壺	口頸部	口縁部凹線文2条。口縁部横ナデ、頸部縦ハケ目。内外面橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。焼成破裂痕あり、 または	4
	Dian	r53	SX-16下層	36-41- 1 00	ute	product date	赤焼け。	
4	F177	r52	SX-16上層下部	弥生土器	壺	口頸部	口縁凹線文、肩部「ノ」字状押圧文。口縁部横ナデ、頸部外面縦ハケ目。内外面にぶい橙色。石英・長石・   雲母含む。焼成破裂痕・焼成時破損 I 種d あり。	4
5	F185	r53	SX-16下層	34-44- 1. BB	-12	I als dett	CONTROL OF THE CONTRO	
Э	C 160	r52 r53	SX-16上層下部 SX-16下層	弥生土器	壺	上半部	口縁端凹線文4条,肩部「ノ」字状押圧文2段。口頭部内外面横ナデ,外面上胴部縦ハケ目-最大径部横ミガキ・下胴部縦ミガキ、内面上胴部縦ハケ目・下胴部が大切。外面橙色、内面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母含む。焼成破裂痕・焼成時破損 1種 c~e あり。	5
6	F173	r49 r52	Ⅲ層 SX-16上層下部	弥生土器	壺	上半部	口縁端凹線文5条。肩部「ノ」字状押圧文2段。外面上胴部縦ハケ目・最大径部横ミガキ、内面ナデ・指頭圧痕。 内外面橙色。長石・石英・雲母・赤色粒含む。焼成剣破裂痕あり、赤焼け。	5
7	F158	r53 r53	SX-16下層 SX-16下層	弥生土器	壺	頸部	<b>同雄「」」今中相正才 月面線下を口、携上梁 中面形態にお Nエに生物り 中本科でり マル・ドマ</b>	
8							同部「ノ」字状押圧文。外面縦ハケ目・横ナデ、内面指頭圧痕。外面灰黄褐色、内面褐灰色。石英・長石・雲母の細粒含む。 焼成破裂痕あり。	6
	F153	r52 r53	SX-16上層下部 SX-16下層	弥生土器	壺	上胴部	肩部「ノ」字状押圧文2段。外面縦ハケ目、内面指頭圧痕。外面にぶい橙色、内面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。焼成破裂痕・接合する焼成破裂土器片あり、焼成不良。	6
9	F182	r53	SX-16下層	弥生土器	壺	上胴部	肩部「ノ」字状押圧文。内外面磨滅。外面橙色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒をやや多く含む。赤焼け。	6
10	F159	r53	SX-16下層	弥生土器	藍	上胴部	肩部「ノ」字状押圧文。外面縦ハケ目、内面指頭圧痕。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。焼成破裂痕あり。	6

_	遺物番	_	出土状況		遺物の内容		文様・調整・色調・胎土等の特徴	収納
図	実測	取上	層位·遺構	種別	器種	部位		番号
11	F163	r52 r53	SX-16上層下部 SX-16下層	弥生土器	壺	上胴部	肩部「ノ」字状押圧文。外面緩ハケ目、内面指頭圧痕。外面浅黄橙色、内面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。焼成破裂痕、色調の異なる破片の接合あり。	6
12	F165	r53	SX-16下層	弥生土器	壺	頸部	顕部幅広のB種凹線文。内面ナデ・指頭圧痕。外面にぶい橙色、内面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母・赤 色粒含む。外面焼成破裂痕か。	6
13	F155	r53	SX-16下層	弥生土器	壺	頸胴部	顕部幅広のB種凹線文。外面縦ハケ目、内面指頭圧痕。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。 焼成破裂痕、接合する焼成破裂土器片、焼成時破損 I 種dあり。	6
14	F151	r49 r52	Ⅲ層 SX-16上層下部	弥生土器	壺	頸胴部	頭部幅狭・沈線風の凹線文。外面縦ミガキ・横ミガキ、内面指頭圧痕・縦ハケ目。外面浅黄橙色、内面灰白色。 石英・長石・雲母の微細粒含む。焼成時破損 I 種 e あり。	6
15	F169	r53 r53	SX-16下層 SX-16下層	弥生土器	壺	胴部	外面上胴部縦ハケ目・最大径部横ミガキ・下胴部縦ミガキ、内面上半縦ハケ目・下半ケズリ。外面橙色、内面 灰黄褐色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。焼成破裂痕あり、やや赤焼け。	7
16	F189	r52 r53	SX-16上層下部 SX-16下層	弥生土器	並	下半部	胴部最大径部「ノ」字状押圧文。外面横ミガキ・縦ミガキ、内面ケズリ。外面橙色、内面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。焼成時破損1種dあり、やや赤焼け。	7
17	F156	r53	SX-16下層	弥生土器	壺?	下胴部	外面縦ミガキ、内面ケズリ・指頭圧痕。外面にぶい黄橙色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。	6
18	F174	r48 r52 r53	攪乱 SX-16上層下部 SX-16下層	弥生土器	壺	下胴部	外面最大径部横ミガキ・下半縦ミガキ、内面ケズリ。外面橙色、内面赤橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。 焼成破裂痕あり、赤焼け。	6
19	F186	r49 r52	Ⅲ層 SX-16上層下部	弥生土器	壺	下半部	外面上胴部縦ハケ目・最大径部横ミガキ・下胴部縦ミガキ、内面上半縦ハケ目・指頭圧痕、下半ケズリ。外面 浅黄橙色、内面橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。	8
20	F184	r53 r52		弥生土器	壺	底部	外面上部横ミガキ・下部縦ミガキ、内面ケズリ状の縦ハケ目。外面にぶい黄橙色、内面灰黄褐色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。焼成破裂痕あり、焼成ややあまい。	8
21	F178	r53 r53	SX-16下層 SX-16下層	弥生土器	壺	底部	・霊中から性含む。%成成数を飲めり、%成次でであまい。 外面上部横ミガキ・下部縦ミガキ、内面ケズリ。外面にぶい黄橙色、内面灰黄褐色。石英・長石・雲母含む。 焼成破裂痕・焼成時破損 種 d・e あり。	8
22	F181	r49	Ⅲ層	弥生土器	壺	底部	外面縦ミガキ、内面ケズリ。外面にぶい黄橙色、内面灰黄褐色。石英・長石・雲母含む。	9
23	F172	r52 r52 r53	SX-16上層下部 SX-16上層下部 SX-16下層	弥生土器	壺	底部	外面縦ミガキ、内面ケズリ。外面にぶい黄橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母含む。焼成やや不良。	9
24	F183	r53	SX-16下層	弥生土器	壺	底部	外面縦ミガキ、内面ケズリ・ナデ。外面にぶい橙色、内面褐灰色。石英・長石・雲母・赤色粒の微細粒含む。	9
25	F175	r49 r52 r53	Ⅲ層 SX-16上層下部 SX-16下層	弥生土器	壺	底部	外面縦ミガキ、内面ケズリ・ナデ、底面平行タタキ状の凹凸。内外面橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。赤焼け。	9
26	F162	r53	SX-16下層	弥生土器	壺	底部	外面縦ミガキ、内面ケズリ。内外面灰黄褐色。石英·長石·雲母含む。	9
27	F180	r52 r53	SX-16上層下部 SX-16下層	弥生土器	壺	底部	外面縦ミガキ、内面磨滅、一部ハケ目残。内外面にぶい黄橙色。石英·長石·雲母含む。焼成やや不良。	9
28	F179	r52 r53	SX-16上層下部 SX-16下層	弥生土器	壺	底部	内外面剝離・磨滅。内外面赤橙色。石英・長石・赤色粒やや多く含む。焼成破裂痕あり。	9
29	F187	r50 r53	Ⅲ層 SX-16下層	弥生土器	売	上半部	口縁部凹線文3条。口頸部内外面横ナデ、体部外面上半縦ハケ目、下半縦ミガキ、内面ケズリ・ナデ。外面灰 黄褐色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒の微細粒含む。一部焼成不良部あり。	10
30	F161	r53	SX-16下層	弥生土器	甕	口縁部	口縁部凹線文・3個1対の押圧浮文。内外面磨滅。内外面橙色。石英·長石·雲母・赤色粒含む。焼成時破損 1種fか、赤焼け。	10
31	F160	r53	SX-16下層	弥生土器	甕	口縁部	口縁部凹線文·3個1対の押圧浮文。内外面にぶい黄橙色。石英·長石·雲母·赤色粒の微細粒含む。焼成時破損 I種 f か。	10
32	F154	r53	SX-16下層	弥生土器	甕	口頸部	口縁部凹線文3条・3個1対の押圧浮文。内外面剝離。外面灰黄褐色、内面にぶい黄橙色。石英·長石·雲母-赤色粒含む。焼成破裂痕あり。	10
33	F188	r48 r52 r53	攪乱 SX-16上層下部 SX-16下層	弥生土器	高坏	全形	口縁部上面沈線文1条・外面凹線文5条、脚部7段の螺旋状沈線文・未貫通矢羽根透5方向・裾部外面凹線 文3条・下端面凹線文1条。坏部外面縦ミガキ・内面横ミガキ。脚部外面縦ミガキ・内面しばり痕・横ナデ。 外面にぶい黄橙色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。	10
34	F167	r53	SX-16下層	弥生土器	高坏	脚部	脚部沈線文7条·未貫通矢羽根透5方向・裾部外面凹線文3条・下端面凹線文1条。外面縦ミガキ、内面しばり痕。 外面灰黄褐色、内面にぶい黄橙色。 石英・長石・雲母・赤色粒の微細粒含む。 外表面の刺落顕著、内面焼成不良。	10
35	F168	r53	SX-16下層	弥生土器	高坏	接合部	坏部外面機ミガキ、内面機ハケ目・円盤充填部ナデ、脚部外面縦ミガキ、内面横ケズリ。外面にぶい橙色、内面橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。	10
36 37	F164 F176	r53 r53	SX-16下層 SX-16下層	弥生土器 弥生土器		坏部 坏部	口縁部凹線文2条残。外面縦ミガキ、内面横ミガキ。外面橙色、内面にぶい橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。やや赤焼け。 外面剝離、内面磨滅・ミガキか。内外面にぶい黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。外面焼成破裂痕。	10
38	F149	r52	SX-16上層下部	弥生土器	器台	筒部	外面縦ハケ目・横ミガキ、内面磨滅・ケズリか。外面黄灰色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母やや多く含む。	10
39	F148	r51	SX-16上層上部	弥生土器		口緑部	外面ハケメ、内面磨滅。内外面浅黄橙色。石英・長石・雲母赤色粒やや多く含む。	10
40	F166 F170	r53 r52 r53	SX-16下層 SX-16上層下部 SX-16下層	石器石器		材材	側面加工痕あり。結晶片岩。 結晶片岩。	11
42	F145	r49	□層	弥生土器	甕	底部	外面タタキ、内面指頭圧痕。内外面橙色。石英・長石・赤色粒やや含む。	11
43	F146	r49	Ⅲ層	土製品	器台形?	底部	近接した円形透2孔。内外面ナデ。内外面にぶい赤褐色。石英・長石・雲母やや多く含む。	11
44	F147	r49	Ⅲ層	土製品	鏡形	全形	鈕部貼り付け・穿孔。全面指頭圧痕。両面赤褐色。石英・長石・雲母やや含む。	11
45	F140	r46	攪乱	弥生土器	壺	口縁部	内外面磨滅。内外面浅黄橙色。石英・長石・雲母・赤色粒やや多く含む。	11
46	F143 F141	r48 r46	攪乱 攪乱	弥生土器 弥生土器	悪	口頸部	口縁部凹線文2条、頸部貼付刻目突帯。内外面横ナデ。外面橙色、内面明赤褐色。石英・長石・雲母・赤色粒やや含む。 外面体部縦ハケ目・頸部横ナデ、内面口縁部横ハケ目・体部指頭圧痕。内外面にぶい橙色。石英・長石・雲母やや含む。	11
48	F144	r48	攪乱	弥生土器	器台	筒部	円形透、クシ描直線文。内外面橙色。石英・長石・雲母・赤色粒含む。	11
49		r47	攪乱	土製品	ボタン状	全形	片側平坦、膨らむ側の頂部に刺突痕あり。高坏充填円盤部の可能性あり。	11
1	₹135 1 F191	0 · 11 b l	レンチ出土遺物実測 □ Ⅲ層	弥生土器	壺	底部	外面ナデ、内面・底面剝離。内外面浅黄橙色。石英・長石を多く含む。	13
2	F191 F192	r54 r56	攪乱 III層	弥生土器	高坏	脚部	外面が方、内面・底面刺標。 P外面位現位已。 石英・長石を多くさむ。 外面横ハケ目・縦ミガキ、内面横ナデ・指頭圧痕。 内外面浅黄橙色。 石英・長石・雲母の細粒含む。	13
3	F197	r60	Ⅲ層 (東壁)	弥生土器	燛	体部	へラ描沈線6条。内外面磨滅。外面灰白色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母をやや多く含む。	13
4	F196	r59	Ⅲ層	弥生土器	甕	底部	外面縦ハケ目・指頭圧痕、内面ナデ。内外面橙色。石英・長石・雲母の細粒をやや多く含む。	13
5	F194	r57	攪乱 攪乱	弥生土器	壺壺	口縁部上胴部	外面磨滅、内面横ナデ。内外面灰白色。石英・長石・雲母の細粒含む。 顕胴部境へラ描沈線。外面横ミガキ、内面指頭圧痕。内外面橙色。石英・長石・雲母の細粒やや含む。	13
7	F193 F195	r57	攪乱	弥生土器 弥生土器		上 胴部	現門が現べて描述線。外面機もカイ、内面指頭上根。内外面包包。石英・灰石・素母の細粒やや含む。 外面ナデ、内面磨滅。外面橙色、内面浅黄橙色。石英・長石・雲母の細粒含む。	13
	- 100	1		I comment	-112	- M A Help	The second secon	1 .0

# IV 文京遺跡の弥生集落の一様相

# -遺跡南部の状況-

文京遺跡20次調査と23次調査は、いずれも愛媛大学城北団地の南部に位置する。そして、明らかになった調査地点の遺跡内容は、北側の法文学部周辺(3・7次調査区)や旧グラウンド部分(12・14・16次調査区)とは、異なる様相を示した。以下、そのような状況に対して、若干なりともまとめを行っておきたい。

まず、面的な調査であった20次調査では、意外と弥生遺跡の展開が散漫であるという、他の調査地点とは、些か異なる様相が明らかとなった。北側には、浅い窪地を挟んで大型掘立柱建物を望むものの、遺構の密度と溝の存在からすれば、弥生集落の東限という想定すら可能な状況が、20次調査区にはある。

他方、3・7次調査区は、微高地上の高所にあたり、 大型掘立柱建物や方形周溝、大型竪穴式住居などが所 在する。その西側前面の、12・14・16次調査区やその 北側には、大規模密集型と言える弥生集落が展開する。 そして、これ以外の調査区においても、特徴的な遺 構・遺物の分布を見せる。2次調査区において小型掘 立柱建物が群在するとともに、微高地の縁辺にあたり 北側には谷を控える18次調査区南側でも、同様の小型 掘立柱建物が集まる。また、10次調査区では鉄器が比 較的多く出土し、ガラス滓や研磨痕跡のない銅鏡片も 出土している。このように、集落内各所で異なる特徴 を、文京遺跡においては窺うことができるのである。

そのような中にあって、20次調査区で、打製石器製作を行う小型円形竪穴式住居SC-35が1棟のみ認められたのである。20次調査区では、西側に密集型弥生集落の東辺を区画するかのような溝群があり、その東にSC-35は位置する。中期後葉から後期前葉の住居であり、必ずしも旺盛な石器製作を必要とする時期でもない。また、結晶片岩製の磨製石器製作は行われていない。集落縁辺部での、特定品目の生産活動を示す状況を読み取ることができよう。

詳細は未検討ながら、20次調査のさらに東部の27次調査でも、やはり散漫な弥生遺構分布の中にあって、竪穴式住居SC-9周辺で、打製石器製作が想定される状況が指摘されている。20次調査SC-35とともに、文

京遺跡の弥生集落東南縁辺部において、打製石器製作 という様相を指摘できる可能性が高い。27次調査の詳 細を検討した上で再論したい。

他方、集落縁辺部での生産活動といった様相の一端を同じように示すと考えられるのが、23次調査9トレンチ検出の、SX-16とした土器焼成失敗品の一括投棄である。中期後葉を示す良好な資料であるとともに、その中でも、凹線文と内面へラケズリという技法的まとまりをもち、同時期の資料にあっても、偏在性の高い土器群である。この土器組成自体の意味についても、土器製作を考える有効な視点となるが、密集居住域出土土器相との比較を通じてなされねばならず、今後の課題である。ここでは、土器焼成失敗品の出土位置として、分析を加えておきたい。

まず、23次調査SX-16は土器焼成失敗品の出土であり、焼成場所そのものは特定できないが、近傍で土器焼成が行われた可能性が高い。23次調査自体、点的な調査で、周辺の遺構展開状況は不明である。北側1次調査区で竪穴式住居などが出土しているが、より北側の密集居住域ほどの密度ではない。むしろ密集居住域との間には、浅い窪地を挟み、2次調査区は、小型掘立柱建物が集まり、倉庫群が位置する空間と見なせる。つまり、密集居住域は南側に拡大しないのである。23次調査SX-16が、密集居住域とは一線を画した位置に所在することは間違いない。

そして、比較的近接する10次調査区においては、遺跡内での鉄器出土がやや集中するとともに、ガラス滓や研磨痕跡のない銅鏡片の出土から、ある種の生産活動が想定できる。したがって、1次調査区の位置づけが曖昧ながら、愛媛大学城北団地構内の西南部一帯が、土器や金属器に関わる生産活動域として位置づけられる可能性が高いとすることができよう。

同様の土器焼成失敗品の出土は、20次調査に隣接する13次調査SK-29でもある。やはり集落縁辺域に近い場所での土器生産、失敗品投棄という状況であろう。ところが、密集居住域に含まれる12次調査区内でも、土器焼成失敗品の一括廃棄が存在する。土器製作・土

器焼成・失敗品投棄という活動の一端が、密集居住域に持ち込まれることもあったことを認識し、土器群の内容に応じて、その意味するところを正確に評価しなければなるまい。

文京遺跡において、弥生集落内各所の機能を限定的にのみ捉えることは適当でないが、一方で、居住域・生産域等と呼び得る差異が、弥生集落内には存在するとできる。とりわけ、密集居住域との対比からして、浅い窪地を挟んだ南側で、種々の生産活動が想定される状況である。生産内容とそれに応じたさらなる空間分割はなお不明な部分が多いが、土器・石器・金属器

の生産の場が、集落南部の縁辺域に配置された様相を 想定しておきたい。

いずれにせよ、集落縁辺域と対比すべき、集落の中枢域あるいは密集居住域の様相が明らかになって初めて、弥生集落の構造的理解は進展する。12・14・16次調査区を中心とした密集居住域の資料が未検討のままながら、これらの予想される成果と比較すべき成果が、遺跡内の南部に偏した20次調査と23次調査で得られたことにこそ意義がある。密集居住域の様相が十分明らかになっていない現時点での、文京遺跡の弥生集落素描であることを明記して、結びとする。 [吉田]

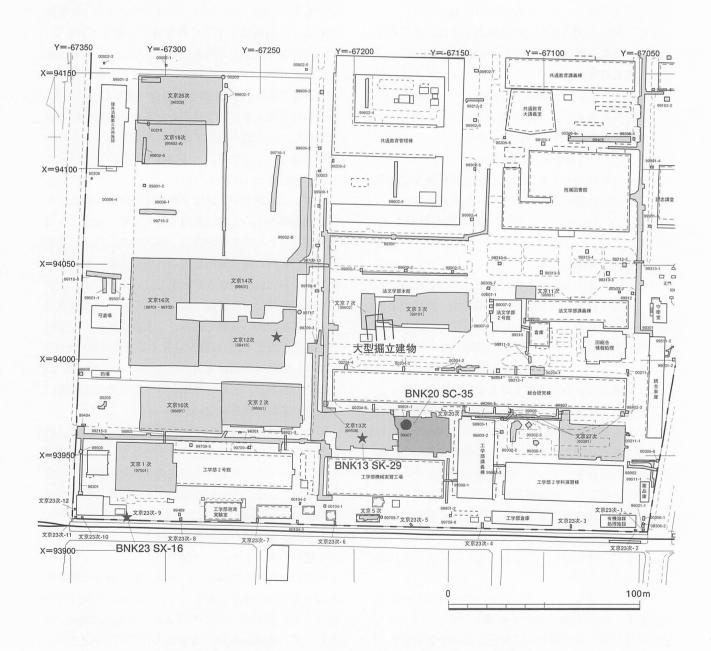
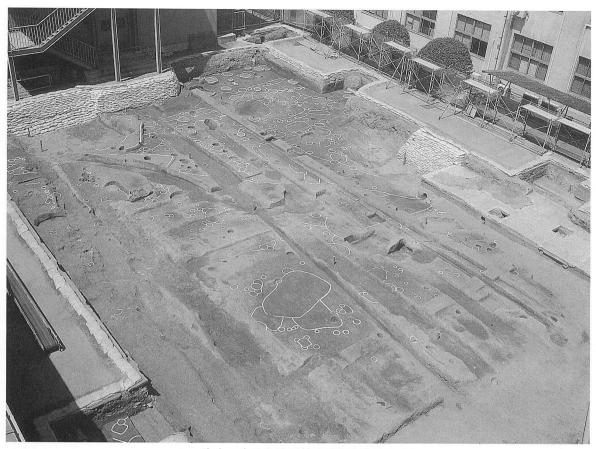


図139 文京遺跡における土器焼成失敗品他の出土地点 (縮尺 1/2,000)





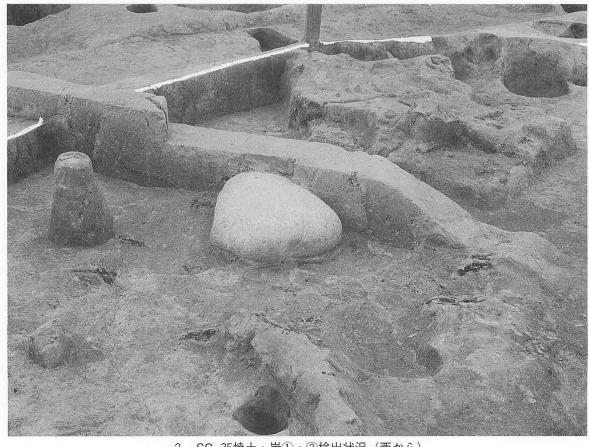
1 弥生・古墳面遺構検出状況(南東から)



2 弥生・古墳面完掘状況(南東から)



1 SC-35焼土・炭①・②検出状況(北から)



2 SC-35焼土・炭①・②検出状況(西から)



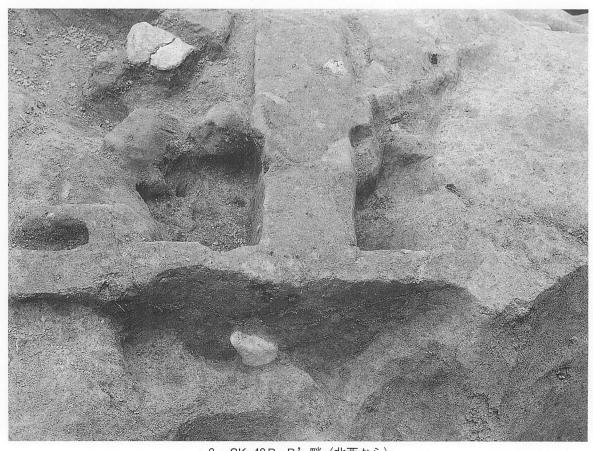
1 SC-35屋根材検出状況(南から)



2 SK-48屋根材検出状況(北から)



1 SK-48A-A' 畔 (北から)



2 SK-48B-B' 畔(北西から)



1 SK-48炭化物・赤色顔料検出状況(北東から)



2 SK-48完掘状況(北西から)



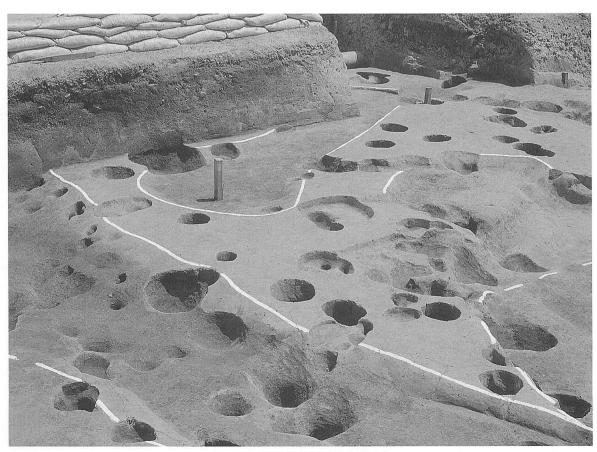
1 調査区北西部弥生・古墳面完掘状況(西から)



2 SD-33・34・36 (南から)



調査区南西部弥生・古墳面完掘状況(西から)



2 SX-40完掘状況(南西から)



1 SC-27・28検出状況 (西から)



2 SC-28完掘状況(南西から)

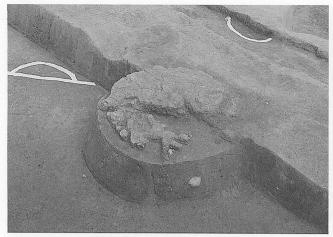
文京遺跡20次調査(9) 図版 9



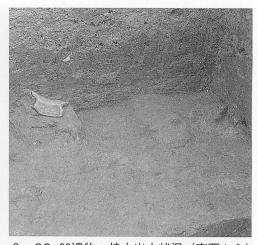
1 SC-27・28完掘状況(西から)



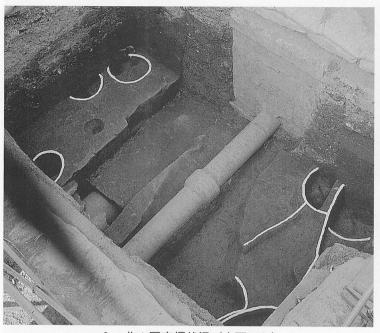
2 SC-27完掘状況(南東から)



1 CU13区粘土検出状況(北西から)



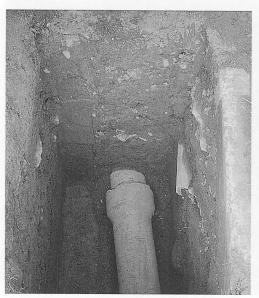
2 SC-29遺物・焼土出土状況(南西から)



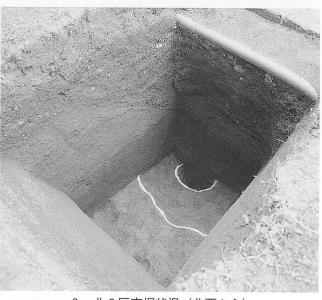
3 北1区完掘状況(南西から)



4 SC-29竈検出状況(西から)



5 北2区完掘状況(南から)



6 北3区完掘状況(北西から)



1 南区完掘状況(南東から)



2 SP-443土層断面(北から)



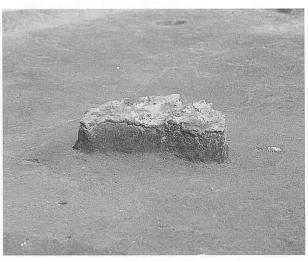
3 鞴羽口 (R37) 他出土状況 (北東から)



4 鞴羽口 (R37) 他出土状況 (南から)



5 SX-22検出状況(北西から)



6 SX-22検出状況(南西から)



1 古代・中世面遺構検出状況(南東から)

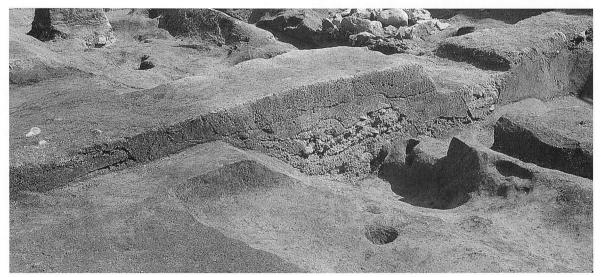


2 古代・中世面完掘状況(西から)



1 SD-2 ウシ下顎骨 (R6) 出土状況(1) (西から) 2 SD-2 ウシ下顎骨 (R6) 出土状況(2) (西から)





3 SD-1~3 (Y=-67168) 土層(北西から)



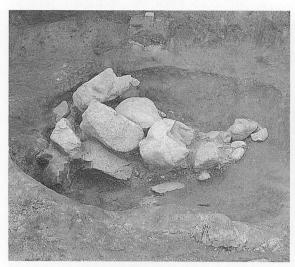
4 SD-1~3 (Y=-67156.2) 土層(北西から)



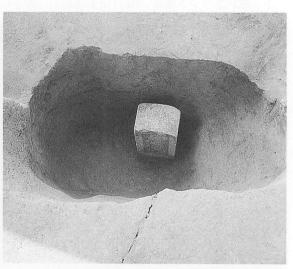
1 SK-9土層断面(西から)



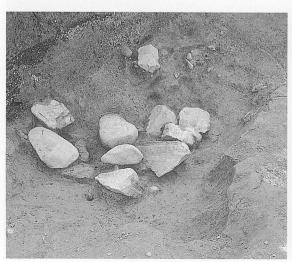
2 SX-15検出状況(北西から)



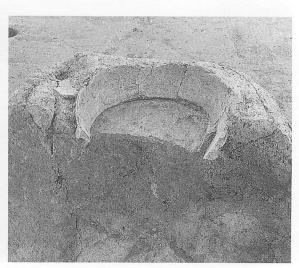
3 SX-13検出状況 (北から)



4 SX-17完掘状況(北から)



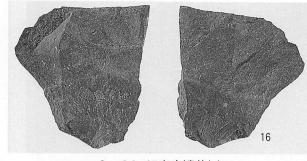
5 SX-19完掘状況(北東から)



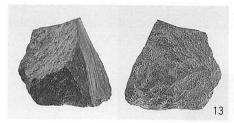
6 SP-130遺物出土状況(東から)



1 SC-35出土遺物(1)



2 SC-35出土遺物(2)



3 SC-35出土遺物(3)



4 SC-35出土遺物(4)



5 SC-35 出土遺物(5)



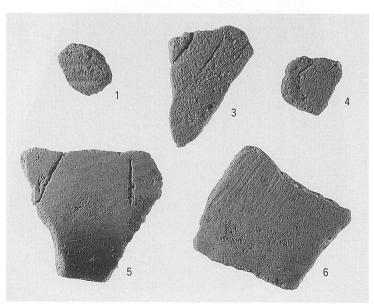
6 SC-35出土遺物(6)



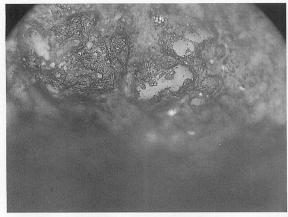




8 SC-35出土遺物(8)



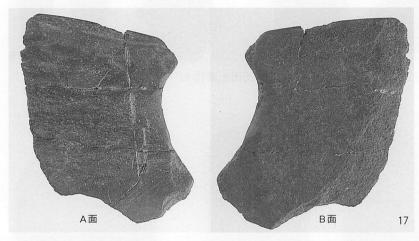
9 SC-35出土遺物(9)



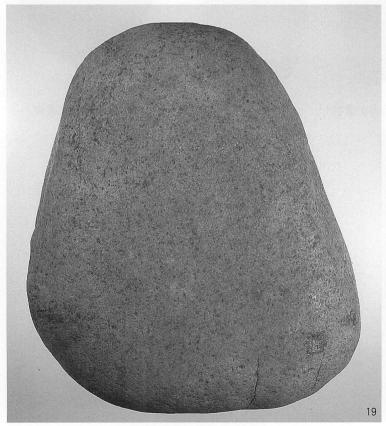
A面抉り部使用痕(×250)



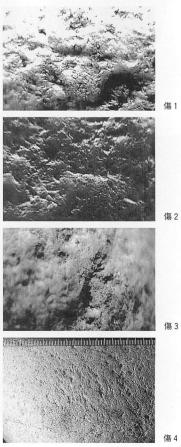
B面刃部使用痕(×250)



SC-35出土遺物(10)

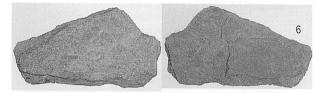


2 SC-35出土遺物(11)

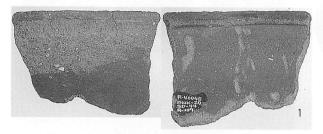




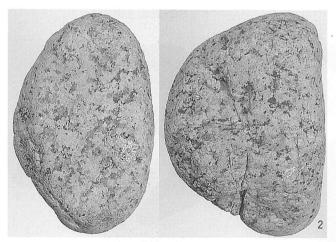
1 SD-33出土遺物(1)



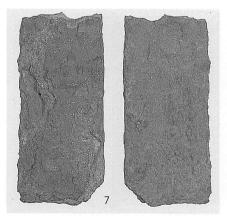
3 SD-33出土遺物(3)



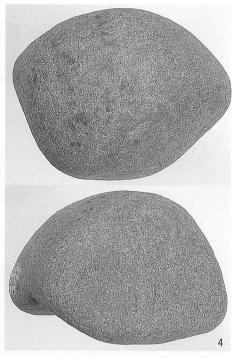
4 SD-44出土遺物



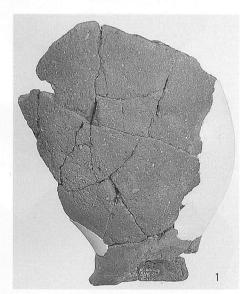
6 SX-50出土遺物(2)



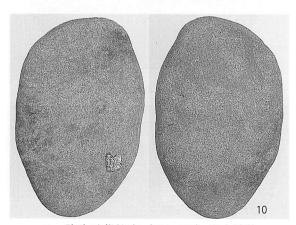
7 弥生時代柱穴 (SP-377) 出土遺物



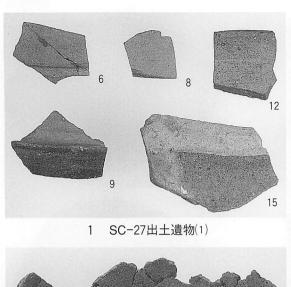
2 SD-33出土遺物(2)

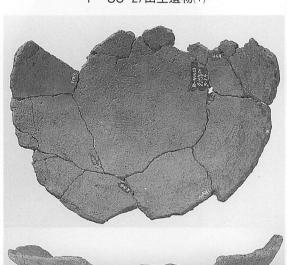


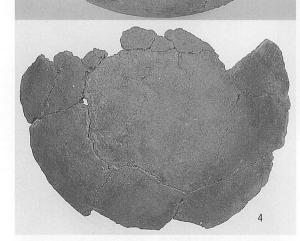
5 SX-50出土遺物(1)



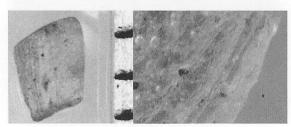
8 弥生時代柱穴(SP-422)出土遺物



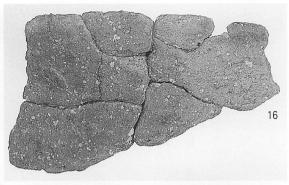




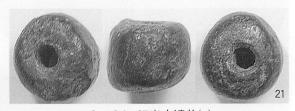
4 SC-28出土遺物(1)



8 SC-28出土遺物(5) (左目盛りは 1 mm)



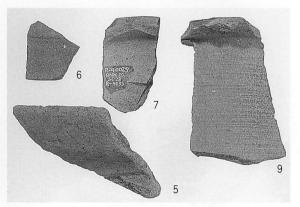
2 SC-27出土遺物(2)



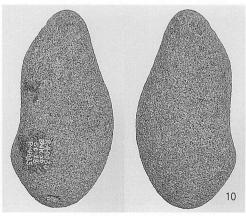
3 SC-27出土遺物(3)



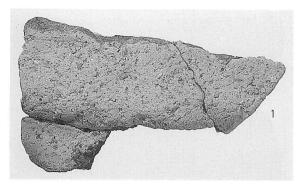
5 SC-28出土遺物(2)



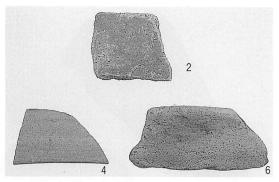
6 SC-28出土遺物(3)



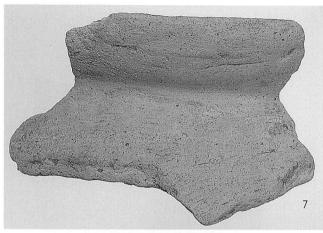
7 SC-28出土遺物(4)



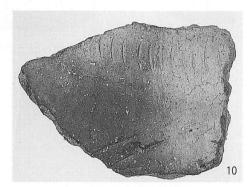
1 SC-29出土遺物(1)



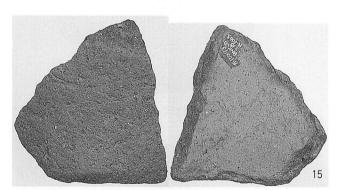
2 SC-29出土遺物(2)



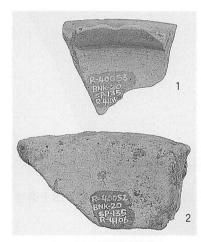
3 SC-29出土遺物(3)



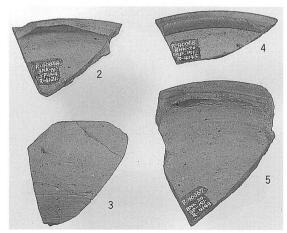
4 北1区Ⅲ層出土遺物



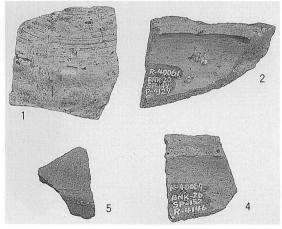
5 北1区攪乱層出土遺物



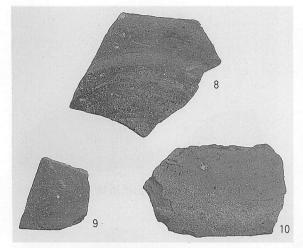
6 SB-67出土遺物



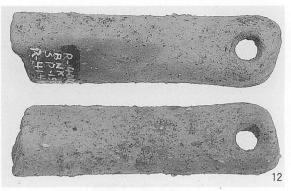
7 SB-69出土遺物



8 SB-70出土遺物



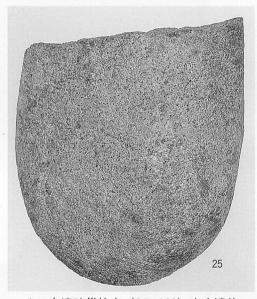
1 古墳時代柱穴(SP-148)出土遺物



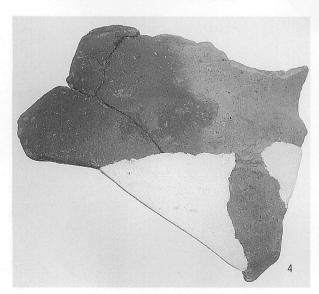
2 古墳時代柱穴(SP-150)出土遺物



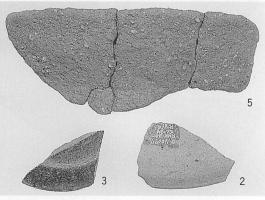
3 古墳時代柱穴(SP-170)出土遺物



4 古墳時代柱穴(SP-189)出土遺物



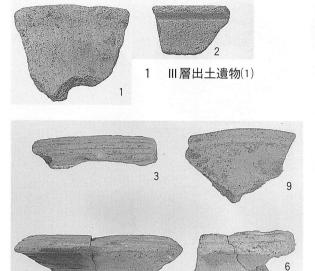
5 SC-23出土遺物(1)



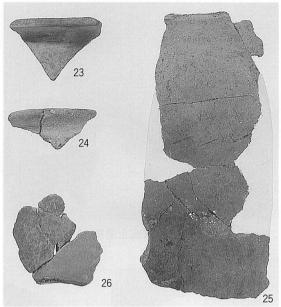
6 SC-23出土遺物(2)



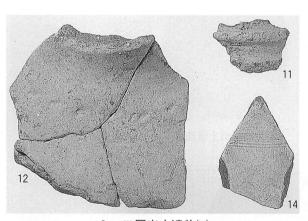
7 SC-23出土遺物(3)



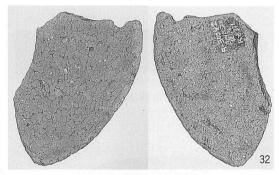
2 Ⅲ層出土遺物(2)



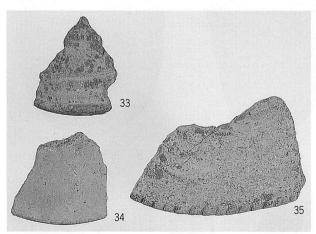
4 Ⅲ層出土遺物(4)



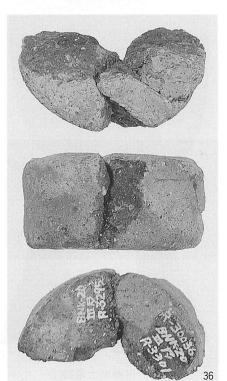
3 Ⅲ層出土遺物(3)



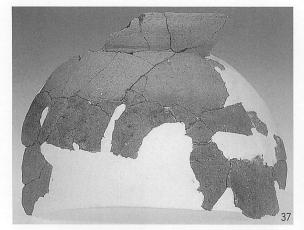
5 Ⅲ層出土遺物(5)



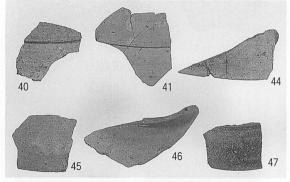
6 Ⅲ層出土遺物(6)



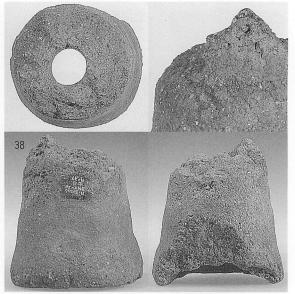
7 Ⅲ層出土遺物(7)



1 Ⅲ層出土遺物(8)



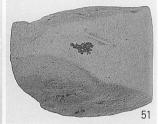
3 Ⅲ層出土遺物(10)



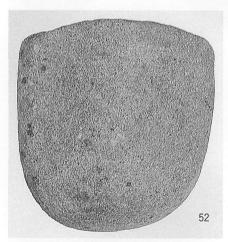
2 Ⅲ層出土遺物(9)



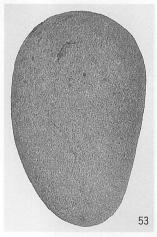
4 Ⅲ層出土遺物(11)



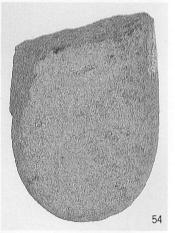
Ⅲ層出土遺物(12)



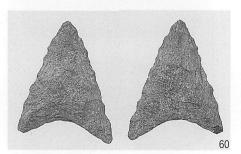
6 Ⅲ層出土遺物(13)



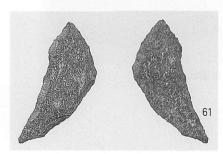
Ⅲ層出土遺物(14)



Ⅲ層出土遺物(15)



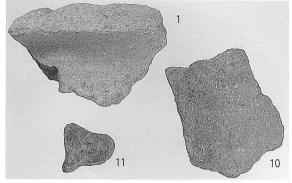
9 Ⅲ層出土遺物(16)



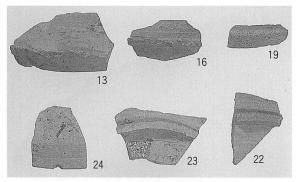
10 川層出土遺物(17)



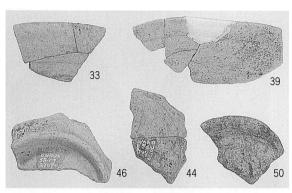
11 Ⅲ層出土遺物(18)



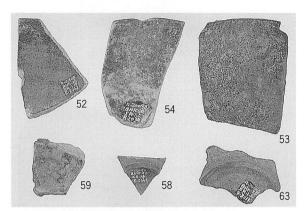
1 SD-1出土遺物(1)



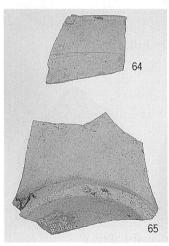
2 SD-1 出土遺物(2)



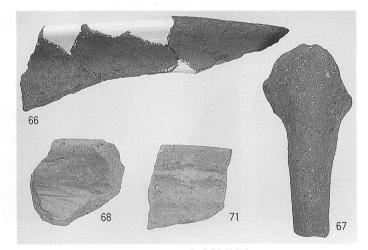
3 SD-1 出土遺物(3)



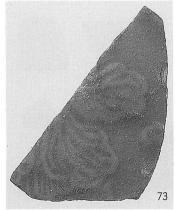
4 SD-1 出土遺物(4)



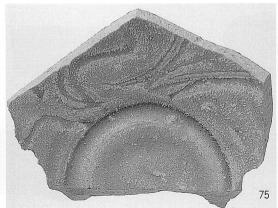
5 SD-1 出土遺物(5)



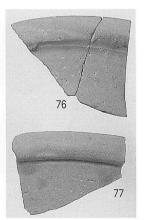
6 SD-1出土遺物(6)



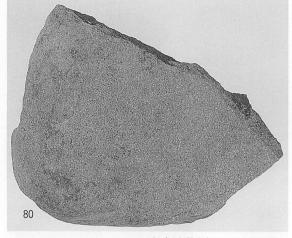
7 SD-1出土遺物(7)



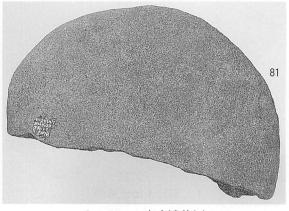
8 SD-1 出土遺物(8)



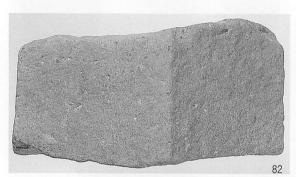
9 SD-1 出土遺物(9)



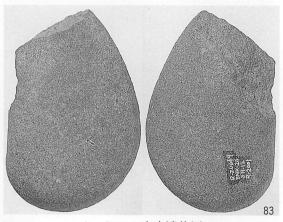
1 SD-1 出土遺物(10)



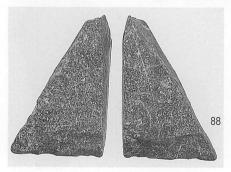
2 SD-1 出土遺物(11)



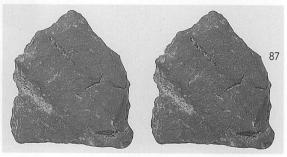
3 SD-1 出土遺物(12)



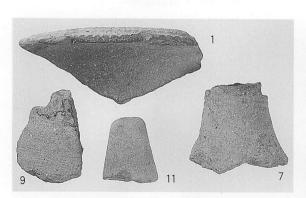
4 SD-1 出土遺物(13)



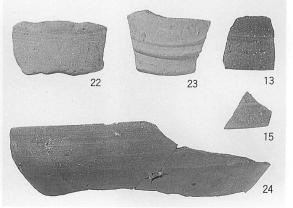
6 SD-1 出土遺物(15)



5 SD-1 出土遺物(14)



7 SD-2出土遺物(1)



8 SD-2出土遺物(2)